

田舎館村
地方創生に関するアンケート調査
結果報告書

令和6年10月

田舎館村

目 次

I 調査の概要.....	1
1 調査目的.....	1
2 調査対象及び調査方法.....	1
3 本報告書の基本的な事項.....	1
II 調査結果.....	3
1 回答者の基本属性について.....	3
2 結婚について.....	5
3 出産・育児について.....	8
4 住まいと住みやすさについて.....	15
5 働くことについて.....	31
6 デジタル（パソコン・スマホ等）の活用について.....	34
7 雪対策について.....	39
8 公共交通について.....	41
9 人口減少社会におけるまちづくりについて.....	48
自由意見のまとめ.....	49
1 自由意見の概要.....	49
2 自由意見の具体例.....	50

I 調査の概要

1 調査目的

国が制定した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少に対応すべく、田舎館村では、第1期と第2期の「田舎館村人口ビジョン」と「田舎館村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策を進めてきました。この度、第3期の「田舎館村人口ビジョン」と「田舎館村まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」を策定するにあたり、村民の皆様へ地方創生に関する様々な事項についてお伺いし、これらの計画策定の基礎資料とするために調査を実施しました。

2 調査対象及び調査方法

■調査対象：村内在住の18歳以上の住民

■調査期間：令和6年8月5日～8月23日

配布方法	配布数	回収方法	有効回収数	有効回収率
郵送法	1,000	郵送での回収	196	19.6%
		インターネットサイトでの回収	146	14.6%
		(合計)	342	34.2%

※対象者全員に紙の調査票を配布し、表紙に郵送での回答とインターネットサイトでの回答のどちらかを選択できるように表記しています。

※インターネットからの回答については、回答が完了しておらず、回答率が全体の3分の1（33%）を下回るものについては無効票扱いとしました。

3 本報告書の基本的な事項

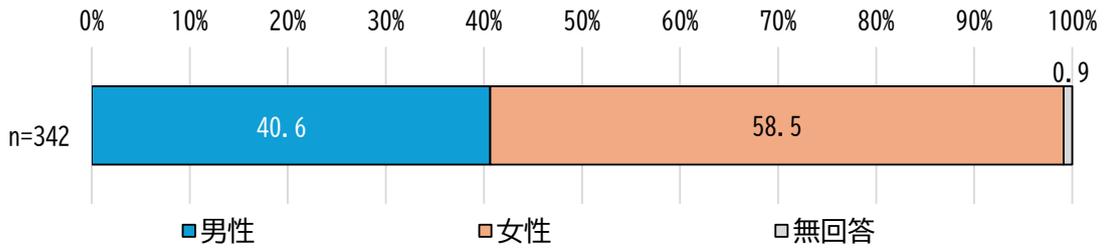
- 図表中のn（number of cases）は、回答者数のことです。
- 設問のなかには前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、その設問においては表中の「回答者数」が全体より少なくなっています。
- 設問には1つのみ答える単数回答と、「3つまで」、「あてはまるものすべて」などの回答を求める複数回答があり、複数回答の設問では、表記の割合の合計が100%を超えます。
- 割合は選択肢ごとに小数第2位で四捨五入しているため、表によってはその割合の合計が100%にならないものがあります。
- 回答が0であった選択肢については、一部表記を省略しています。
- 各設問の選択肢等について、意味を損なわない範囲で表現を簡略化している場合があります。
- クロス分析では、「無回答」は除外して分析しています。

- クロス分析での、ポイント差については、グラフ上に表記された割合の値で計算した差と、説明文に記載された差の値が0.1ポイント大きくまたは小さくなることがあります。これは、グラフ上に表記されている割合の値が少数第2位を四捨五入している一方、説明文に記載されている差の値は、四捨五入する前の値で計算しているため、違いが生じることがあります。

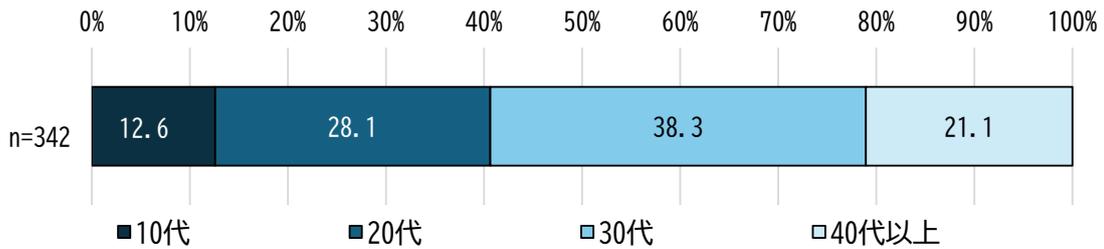
Ⅱ 調査結果

1 回答者の基本属性について

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)



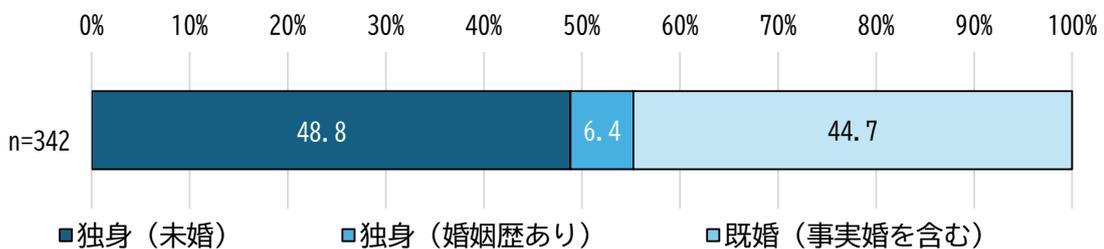
問2 あなたは現在何歳ですか。(1つに○)



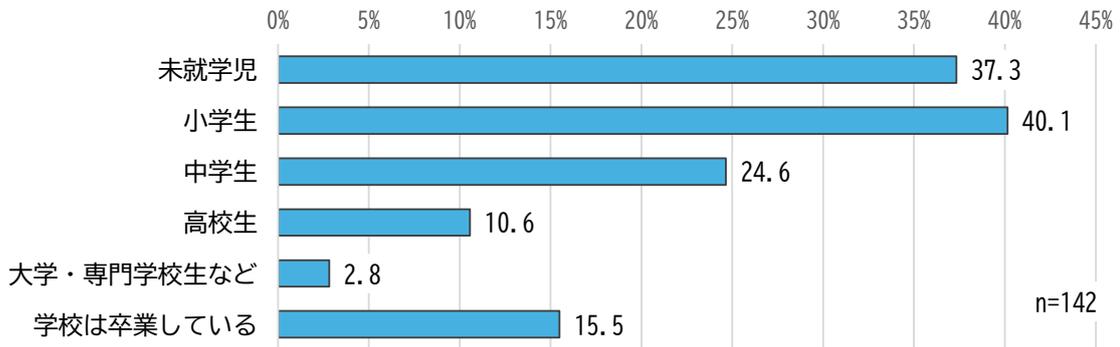
問3 あなたの現在の仕事の状況は、以下のどれにあてはまりますか。(1つに○)



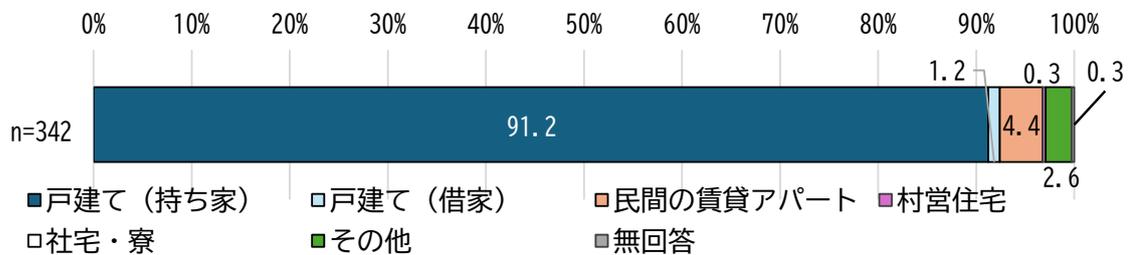
問4 あなたは、現在、結婚していますか。(1つに○)



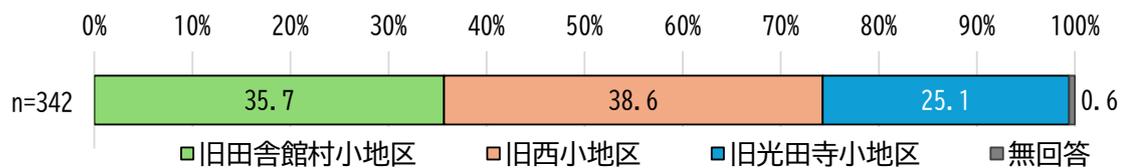
問9-1 子どもがいる方にお尋ねします。子どもは、次のどの段階にあてはまりますか。
(あてはまるものすべてに○)



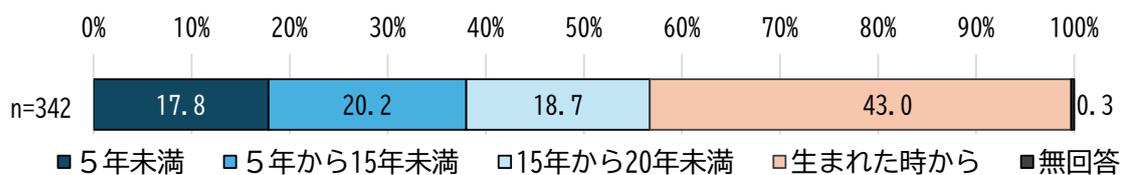
問10 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○)



問11 あなたの住まいは、どの地区に該当しますか。(1つに○)



問12 あなたは、現在の住所に住み始めてから、通算して何年になりますか。(1つに○)

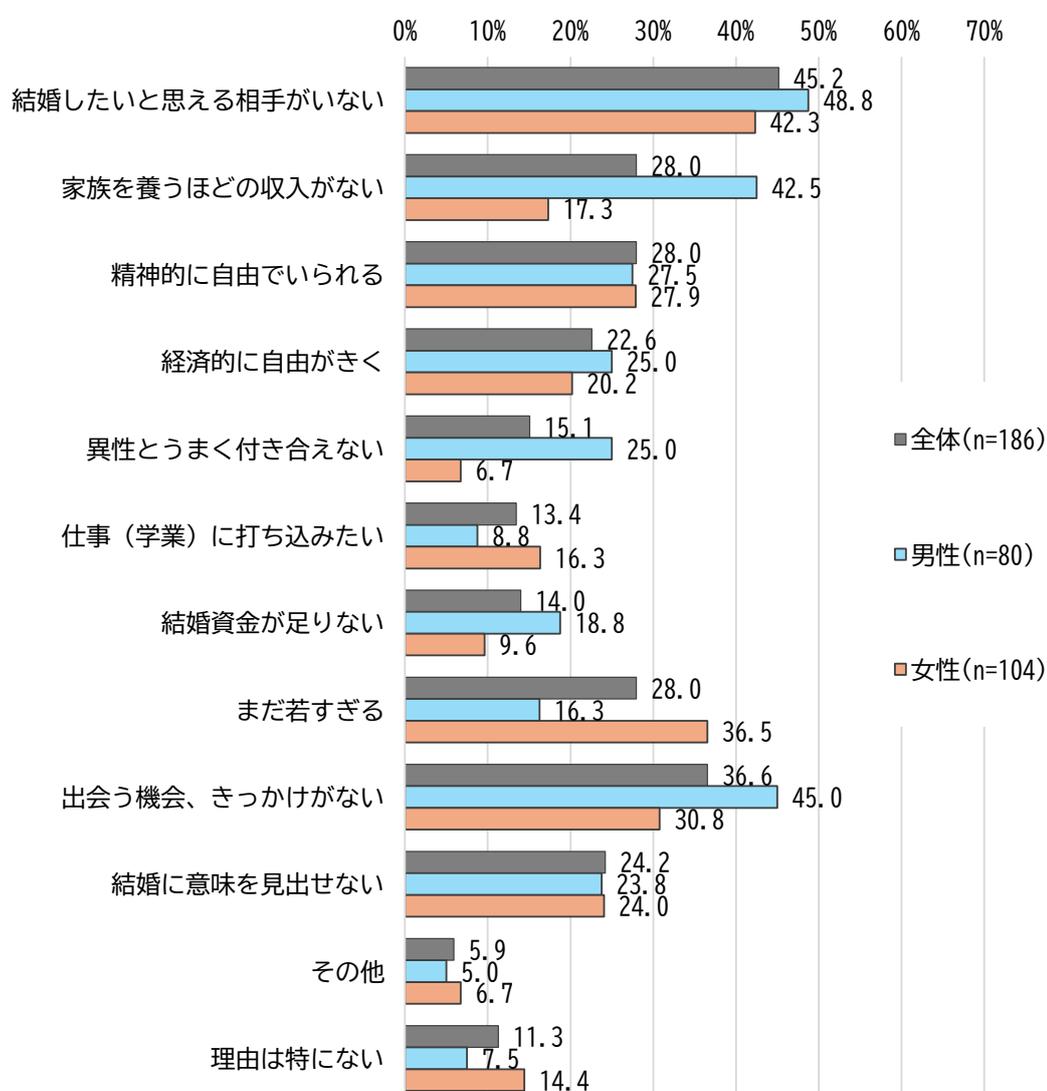


2 結婚について

問4-1 現在、結婚されていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

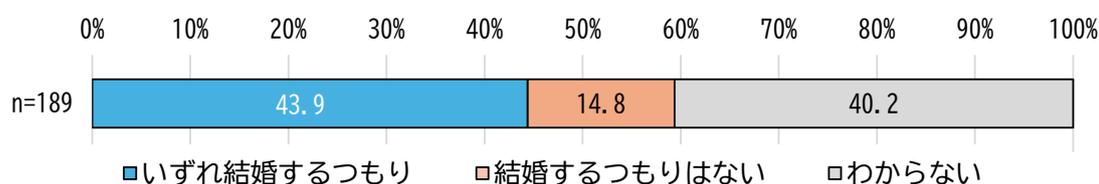
独身の方（未婚あるいは婚姻歴あり）を対象に尋ねたところ、全体としては、「結婚したいと思える相手がない」の割合が45.2%と最も高く、次いで、「出会う機会、きっかけがない」が36.6%、「家族を養うほどの収入がない」、「精神的に自由でいられる」、「まだ若すぎる」の3つが28.0%となっている。

性別で見ると、「家族を養うほどの収入がない」（男性のほうが女性より25.2ポイント高い）の差が最も大きく、次いで、「まだ若すぎる」（男性のほうが女性より20.3ポイント低い）、「異性とうまく付き合えない」（男性のほうが女性より18.3ポイント高い）、「出会う機会、きっかけがない」（男性のほうが女性より14.2ポイント高い）が続いている。



問4-2 今後の結婚に関する考えは次のうち、どれにあてはまりますか。(1つに○)

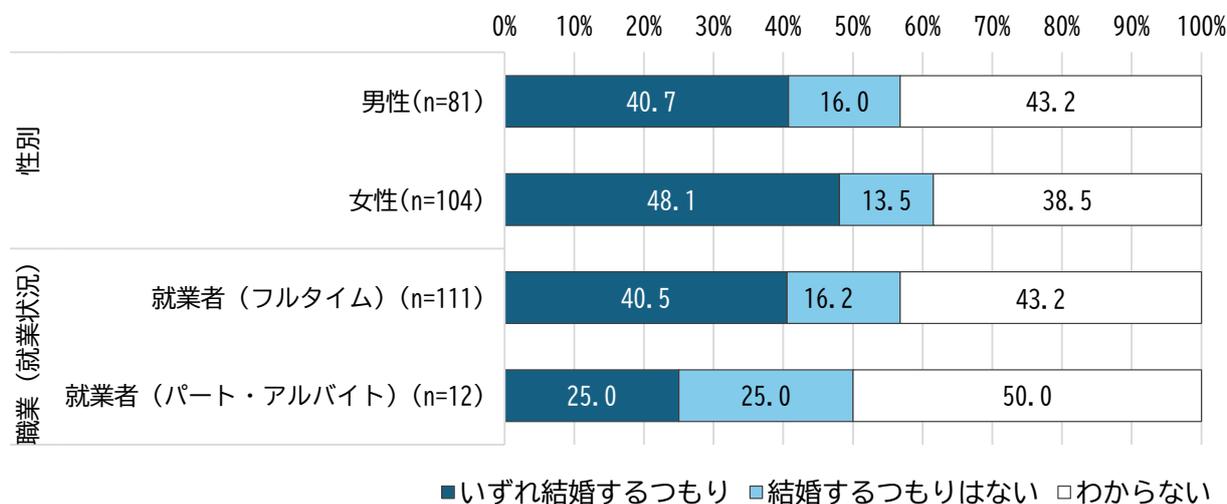
独身の方（未婚あるいは婚姻歴あり）を対象に尋ねたところ、「いずれ結婚するつもり」の割合が43.9%と最も高く、「わからない」が40.2%となっている。



性別でみると、「いずれ結婚するつもり」でやや差があり、女性は男性よりも7.4ポイント高くなっている。

就業状況別でみると、「フルタイム」と「パート・アルバイト」の差が最も大きいのは「いずれ結婚するつもり」で、「フルタイム」より「パート・アルバイト」のほうが15.5ポイント低くなっている。

<性別・職業（就業状況）と結婚願望の有無のクロス分析>



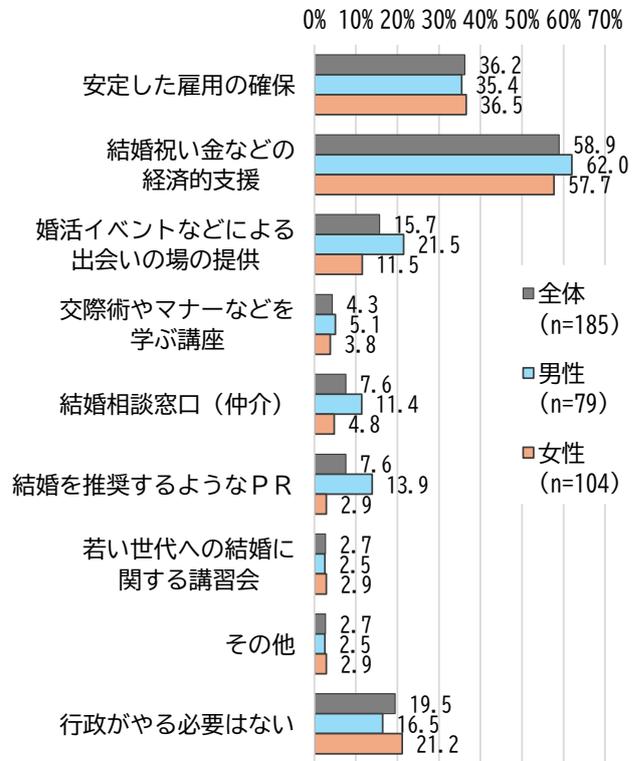
問4-3 田舎館村に取り組んで欲しい、結婚支援対策は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

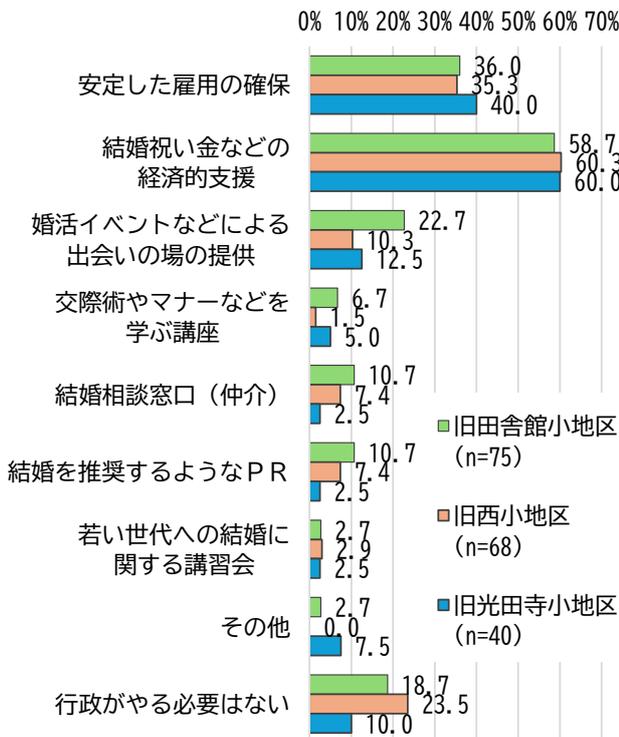
全体として、「結婚祝い金などの経済的支援」の割合が58.9%と最も高く、「安定した雇用の確保」が36.2%、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」が15.7%と続いている。「行政がやる必要はない」が19.5%となっている。

性別でみると、「結婚を推奨するようなPR」の差が最も大きく、女性より男性のほうが11ポイント高くなっており、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」についても男性のほうが10ポイント高くなっている。

<性別と結婚支援対策要望のクロス分析>



<居住地区と結婚支援対策要望のクロス分析>



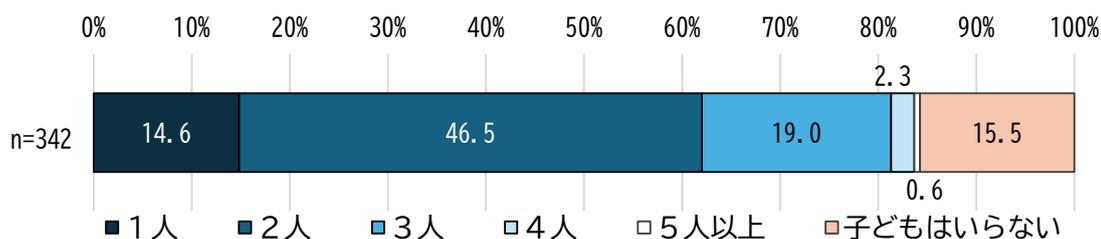
居住地区別でみると、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」では、旧田舎館小地区(22.7%)は旧西小地区(10.3%)と旧光田寺小地区(12.5%)よりそれぞれ12.4ポイントと10.2ポイント高くなっており、「行政がやる必要はない」では、旧西小地区(23.5%)は旧光田寺小地区(10.0%)より13.5ポイント高くなっている。

3 出産・育児について

問5 将来的に何人の子どもを持とうと考えていますか（今いる子どもの人数、成人している子どもの人数も含む）。（1つに○）

将来的にほしい子どもの数が「2人」の割合が46.5%と最も高く、次いで、「3人」が19.0%、「1人」が14.6%と続いている。

「子どもはいるらない」は15.5%となっている。



問6 あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか（今いる子どもの人数、成人している子どもの人数も含む）。（1つに○）

全体として、理想的な子どもの数は問5（将来的に持ちたい子どもの数）と同じく、「2人」の割合が48.1%と最も高く、次いで、「3人」が28.6%、「1人」が5.3%と続いている。「子どもはいるらない」は13.6%となっている。

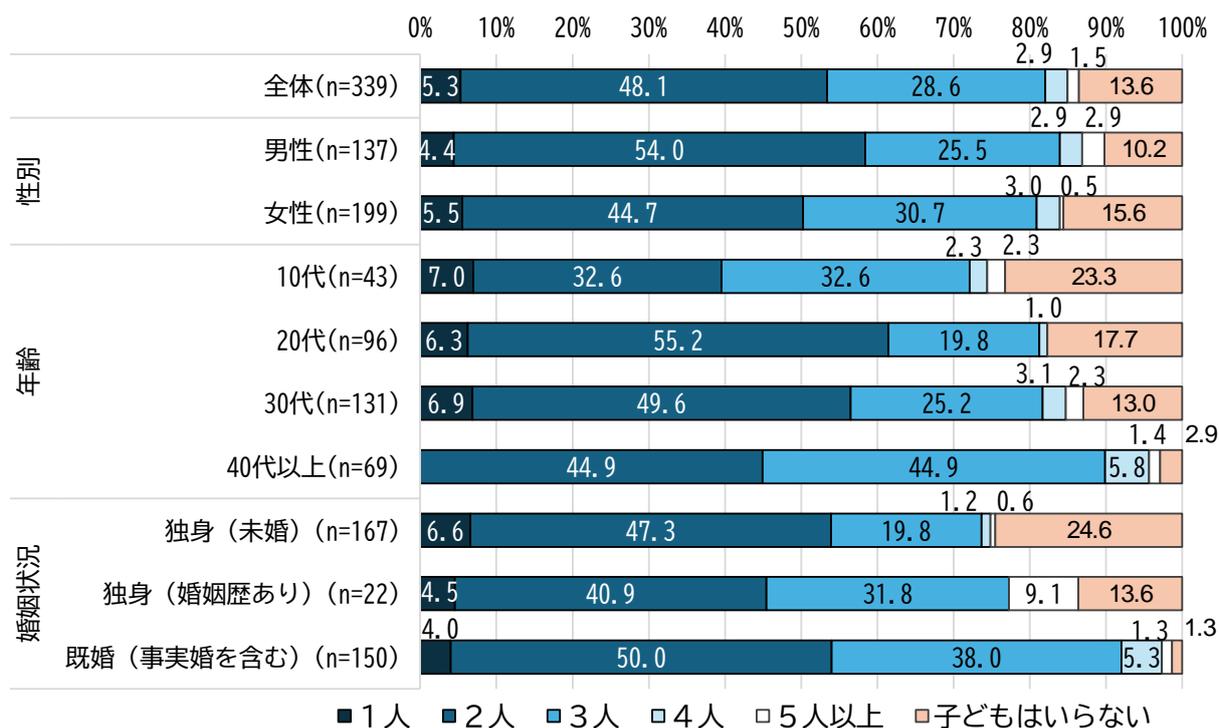
<性別・年齢・婚姻状況と理想的な子どもの数のクロス分析>は次のページ

性別でみると、理想的な子どもの数が「2人」では、女性（44.7%）より男性（54.0%）のほうが9.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、理想的な子どもの数が「2人」では、20代（55.2%）が10代と40代よりそれぞれ22.7ポイントと10.3ポイント高くなっており、30代（49.6%）と40代（44.9%）が10代よりそれぞれ17.1ポイントと12.4ポイント高くなっている。理想的な子どもの数が「3人」では、20代（19.8%）が10代と40代よりそれぞれ12.8ポイントと25.1ポイント低くなっており、10代（32.6%）と30代（25.2%）が40代よりそれぞれ12.4ポイントと19.7ポイント低くなっている。

婚姻状況別でみると、理想的な子どもの数が「3人」では、既婚（38.0%）より独身（未婚、19.8%）のほうが18.2ポイント低くなっており、「子どもはிரない」では、既婚（1.3%）より独身（未婚24.6%、婚姻歴あり13.6%）のほうがそれぞれ23.2ポイントと12.3ポイント高くなっており、独身（婚姻歴あり）が独身（未婚）より10.9ポイント高くなっている。

<性別・年齢・婚姻状況と理想的な子どもの数のクロス分析>

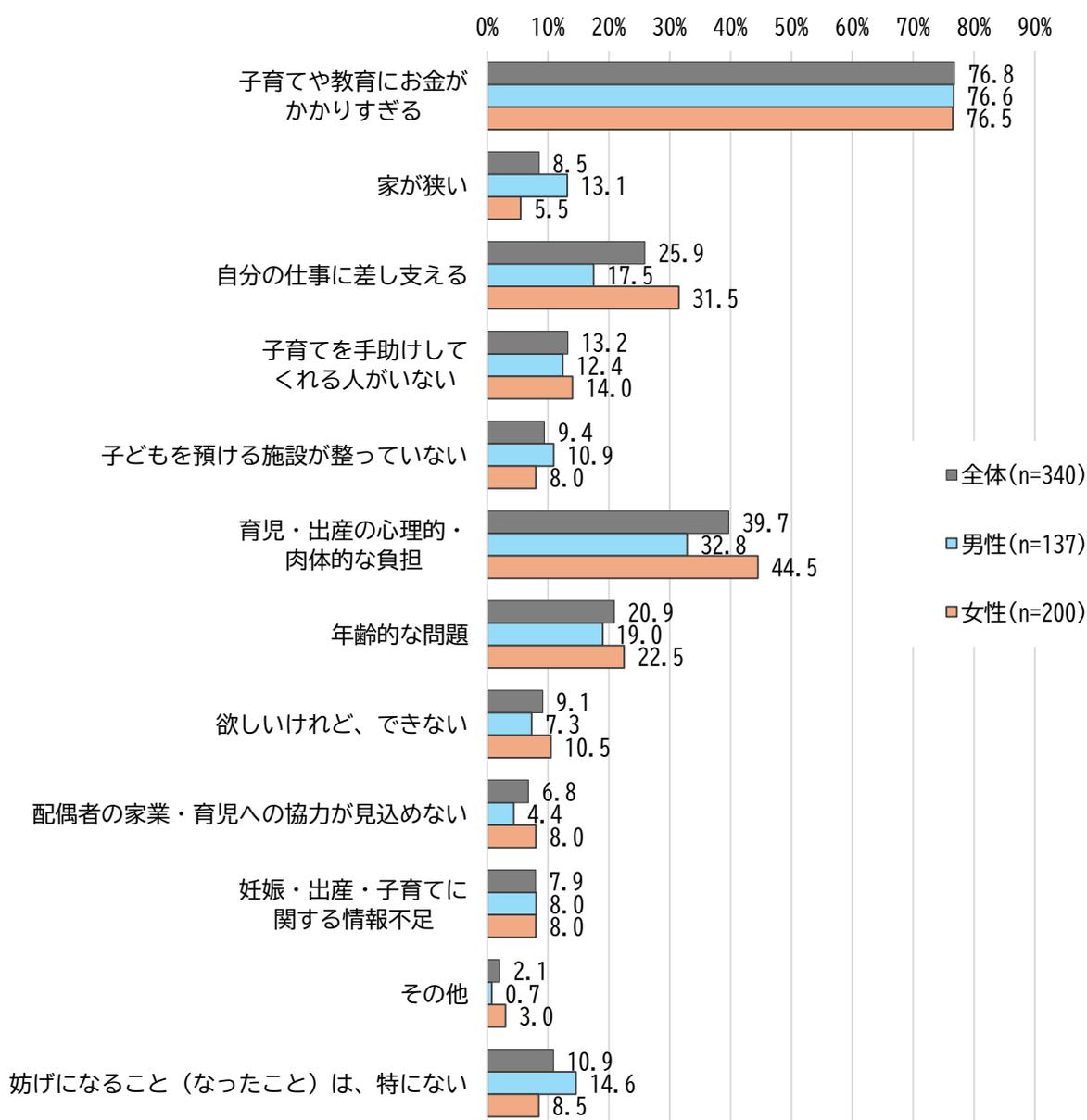


問7 理想的な子どもの数を実現する上で、妨げとなること（または妨げとなったこと）は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

全体として、理想的な子どもの数を実現する上で妨げとなることについて、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」の割合が76.8%と最も高く、次いで、「育児・出産の心理的・肉体的な負担」が39.7%、「自分の仕事に差し支える」が25.9%と続いている。

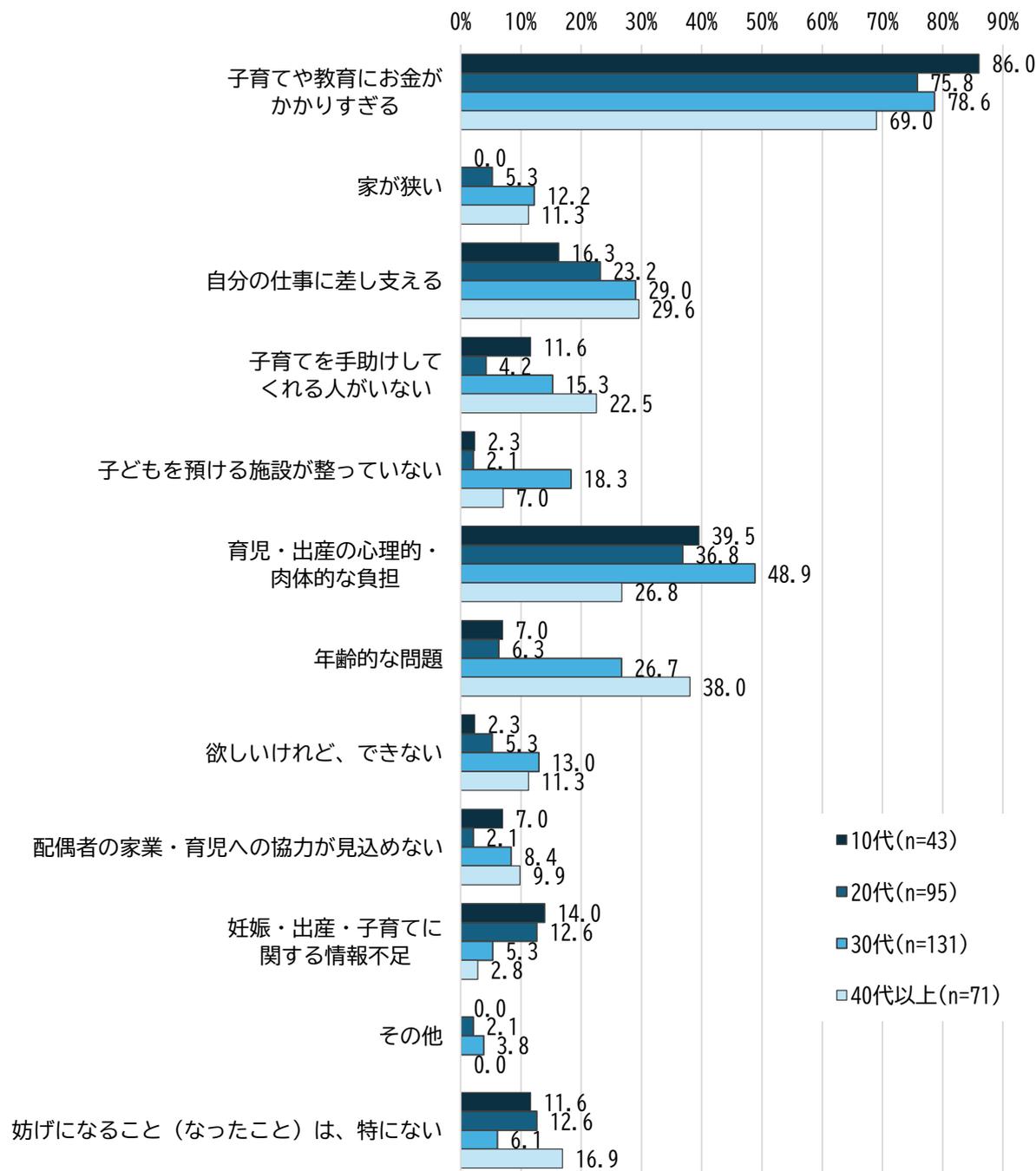
性別でみると、「自分の仕事に差し支える」と「育児・出産の心理的・肉体的な負担」では、男性より女性のほうがそれぞれ14.0ポイントと11.7ポイント高くなっている。

<性別と理想な子ども人数を妨げる要因のクロス分析>



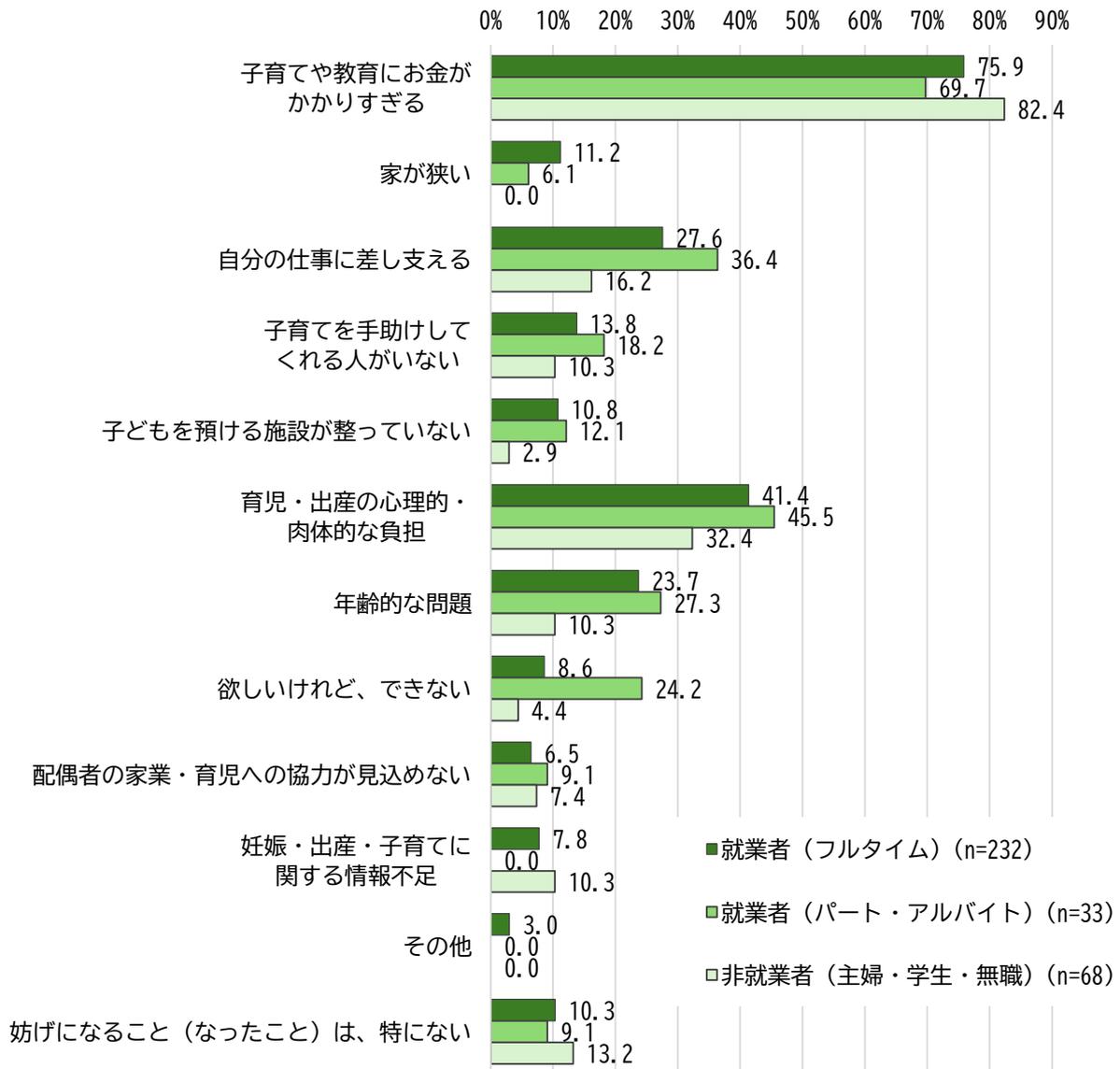
年齢別でみると、「自分の仕事に差し支える」では、年齢が高くなるにつれ高い傾向がみられるのに対し、「妊娠・出産・子育てに関する情報不足」では、若い年代ほど割合が高い傾向がみられる。

<年齢と理想な子ども人数を妨げる要因のクロス分析>



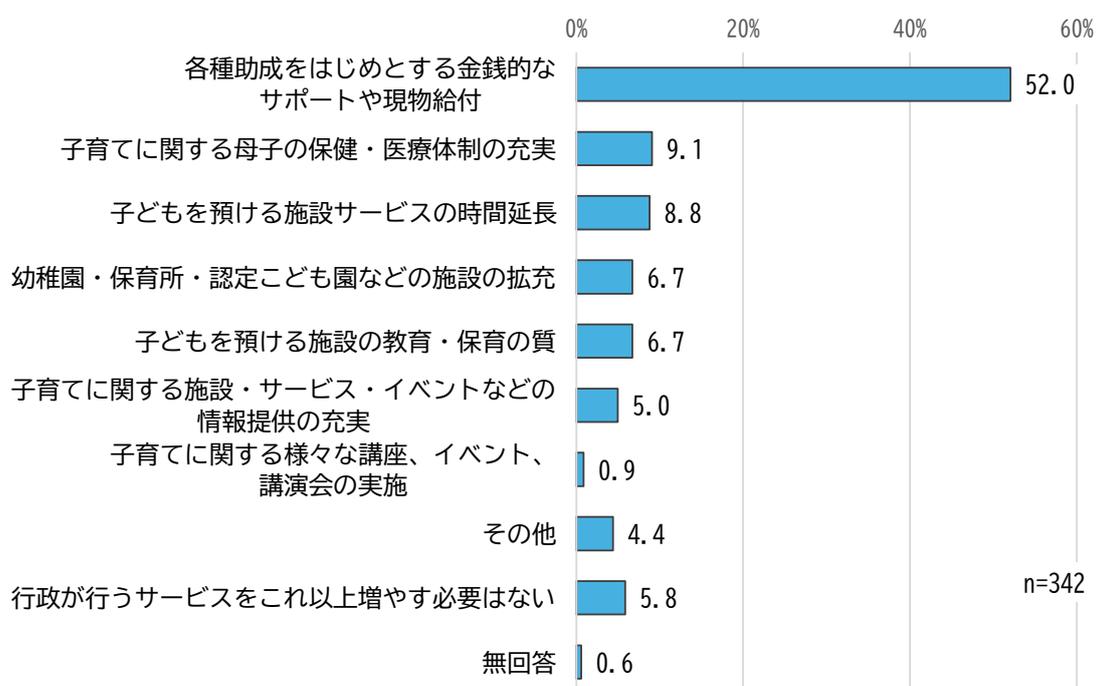
就業状況別でみると、「自分の仕事に差し支える」、「子どもを預ける施設が整っていない」、「育児・出産の心理的・肉体的な負担」、「年齢的な問題」などにおいて、就業者が非就業者より10ポイント前後高くなっている。

<職業（就業状況）と理想な子ども人数を妨げる要因のクロス分析>



問8 今後、出産・育児に関するサービスとして、田舎館村が最も力を入れるべきだと思うのは次のうち、どれですか。(1つに○)

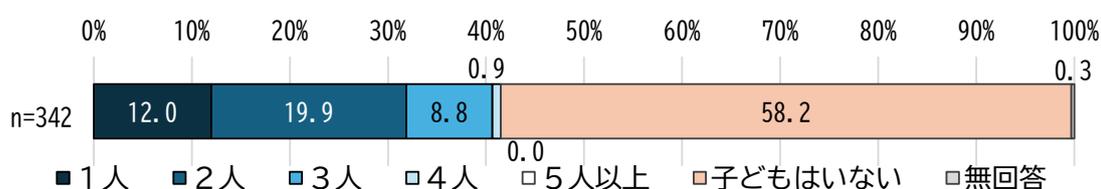
「各種助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」の割合が52.0%と最も高く、次いで、「子育てに関する母子の保健・医療体制の充実」が9.1%、「子どもを預ける施設サービスの時間延長」が8.8%と続いている。



問9 あなたは、現在、子どもが何人いますか。(1つに○)

子どもがいる回答者の割合は41.5%となっており、そのうち、「2人」の割合が19.9%と最も高く、次いで、「1人」が12.0%、「3人」が8.8%、4人が0.9%と続いている。「5人以上」はいない。

「子どもはいない」は58.2%となっている。



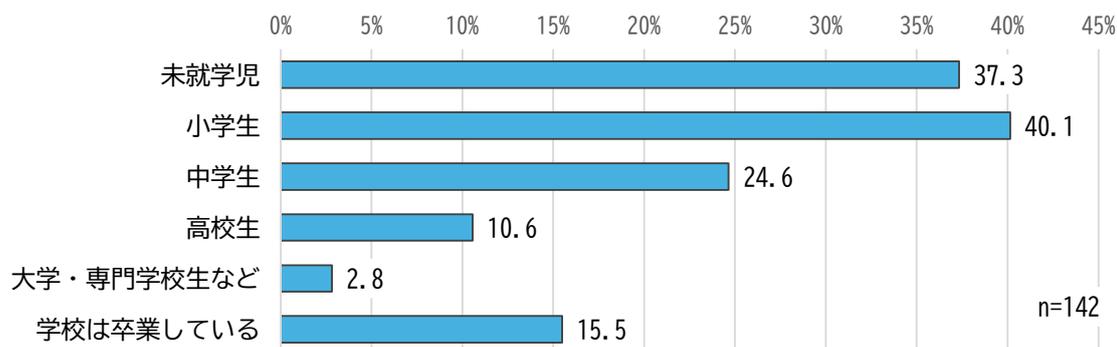
問9-1 子どもがいる方にお尋ねします。子どもは、次のどの段階にあてはまりますか。

(あてはまるものすべてに○)

〔再掲〕

「小学生」の割合が40.1%と最も高く、次いで、「未就学児」が37.3%、「中学生」が24.6%と続いている。

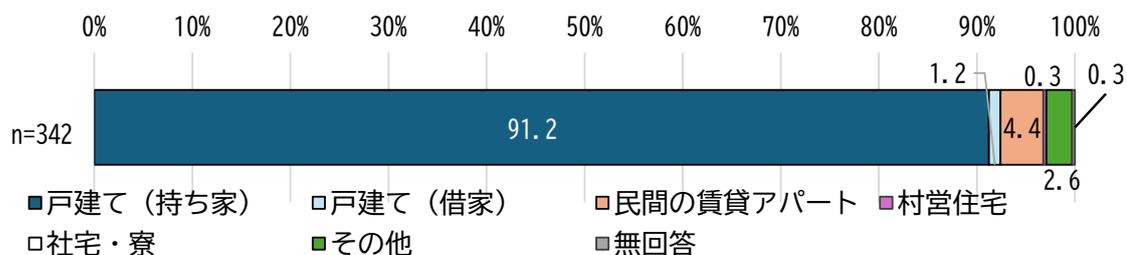
「学校は卒業している」の割合は15.5%となっている。



4 住まいと住みやすさについて

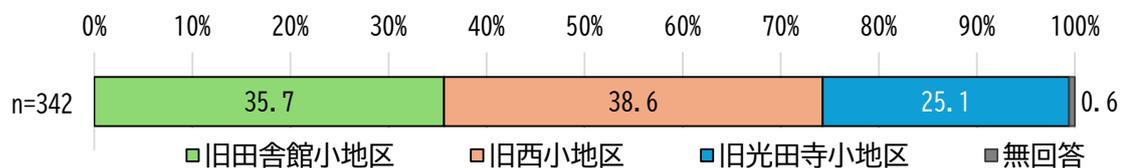
問 10 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○) [再掲]

「戸建て（持ち家）」の割合が91.2%と最も高く、次いで「民間の賃貸アパート」が4.4%、「戸建て（借家）」が1.2%と続いている。「社宅・寮」に住んでいる人はいない。



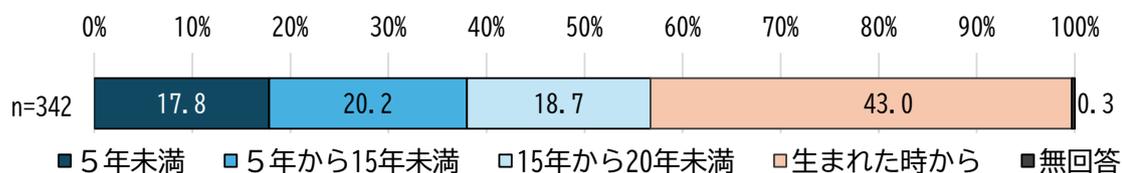
問 11 あなたの住まいは、どの地区に該当しますか。(1つに○) [再掲]

「旧田舎館小地区」が35.7%、「旧西小地区」が38.6%、「旧光田寺小地区」が25.1%となっている。



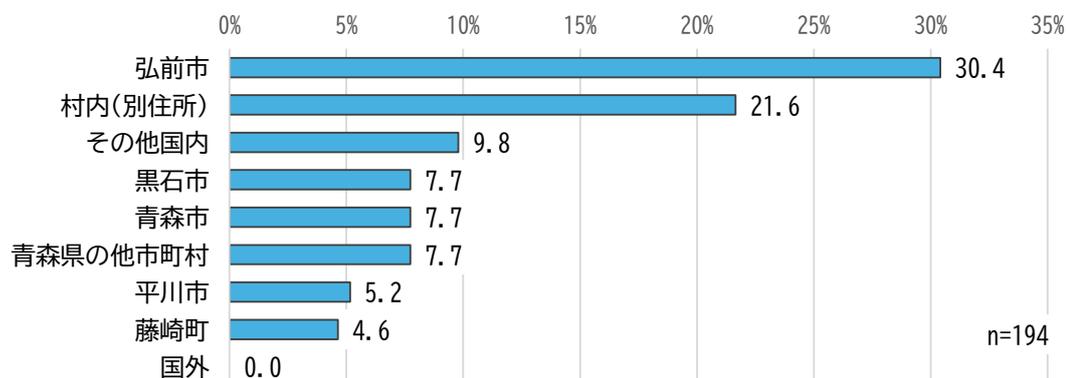
問 12 あなたは、現在の住所に住み始めてから、通算して何年になりますか。(1つに○) [再掲]

「生まれた時から」の割合が43.0%となっている。それ以外の転入者では、「5年未満」が17.8%、「5年から15年未満」の割合が20.2%、「15年から20年未満」が18.7%となっている。



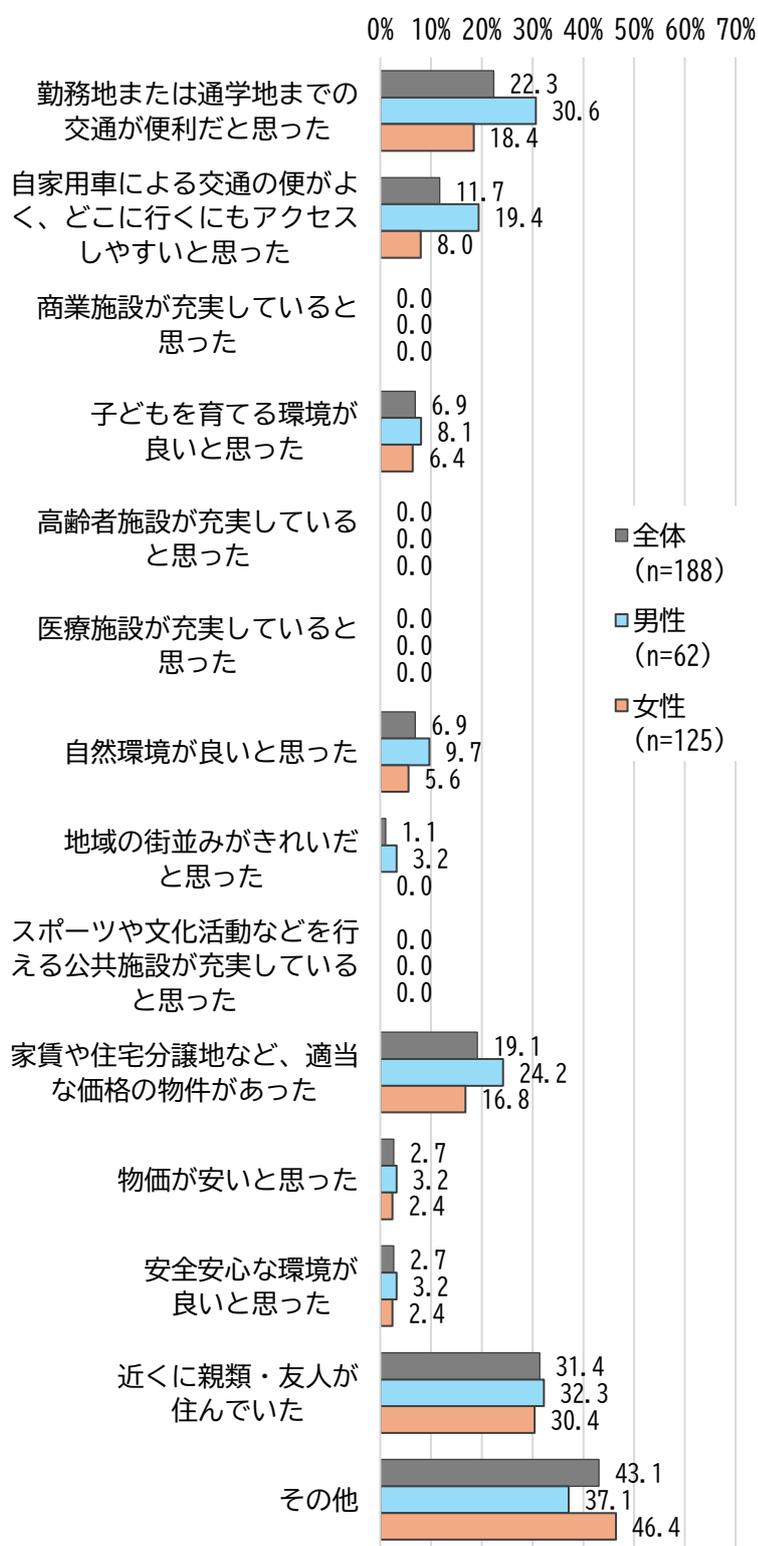
問 12-1 あなたは、現在の住所に来られる直前に、どちらにお住まいでしたか。(1つに○)

転入者に、現在の住所に来る直前に住んでいた場所について尋ねたところ、「弘前市」の割合が30.4%と最も高く、「村内（別住所）」は21.6%となっている。国外からの転入者はいない。



問 12-2 現在の住所に転入(転居)した理由に、近いものを選んでください。
 (あてはまるもの3つまで○)

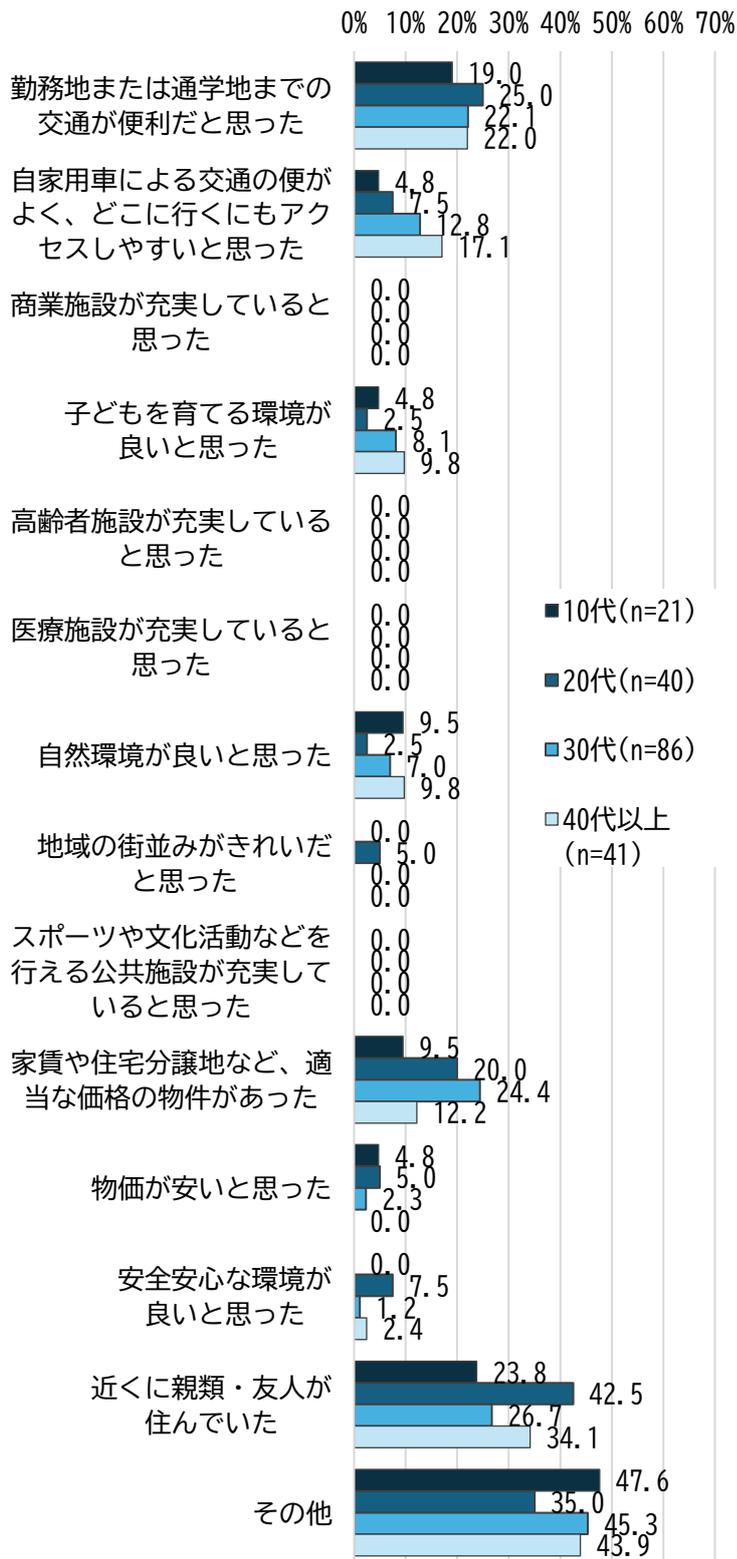
<性別と転入理由のクロス分析>



全体として、「近くに親類・友人が住んでいた」の割合が 31.4%と最も高く、次いで、「勤務地または通学地までの交通が便利だと思った」が 22.3%、「家賃や住宅分譲地など、適当な価格の物件があった」が 19.1%と続いている。

性別で見ると、「勤務地または通学地までの交通が便利だと思った」と「自家用車による交通の便がよく、どこに行くにもアクセスしやすいと思った」では、男性（それぞれ 30.6%と 19.4%）のほうが女性（それぞれ 18.4%と 8.0%）よりそれぞれ 12.2ポイントと 11.4ポイント高くなっている。

<年齢と転入理由のクロス分析>

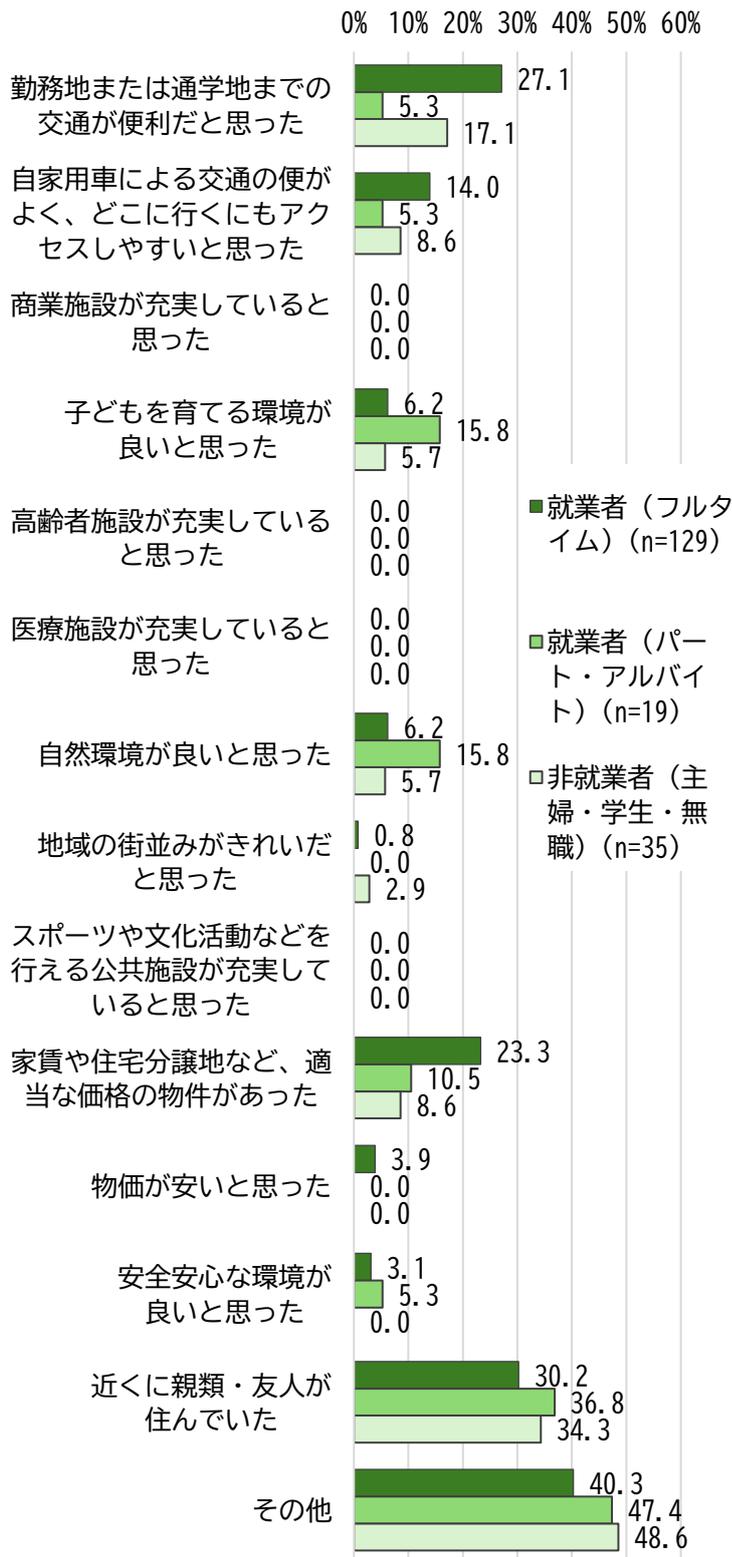


年齢別で見ると、「近くに親類・友人が住んでいた」では、20代の割合が42.5%と最も高く、10代(23.8%)と30代(26.7%)よりそれぞれ18.7ポイントと15.8ポイント高くなっている。

「家賃や住宅分譲地など、適当な価格の物件があった」においては、30代の割合が24.4%と最も高く、10代(9.5%)と40代(12.2%)よりそれぞれ14.9ポイントと12.2ポイント高くなっている。

「自家用車による交通の便がよく、どこに行くにもアクセスしやすいと思った」では、年齢が高くなるにつれ割合が高い傾向がみられ、40代の割合が17.1%と最も高く、10代(4.8%)より12.3ポイント高くなっている。

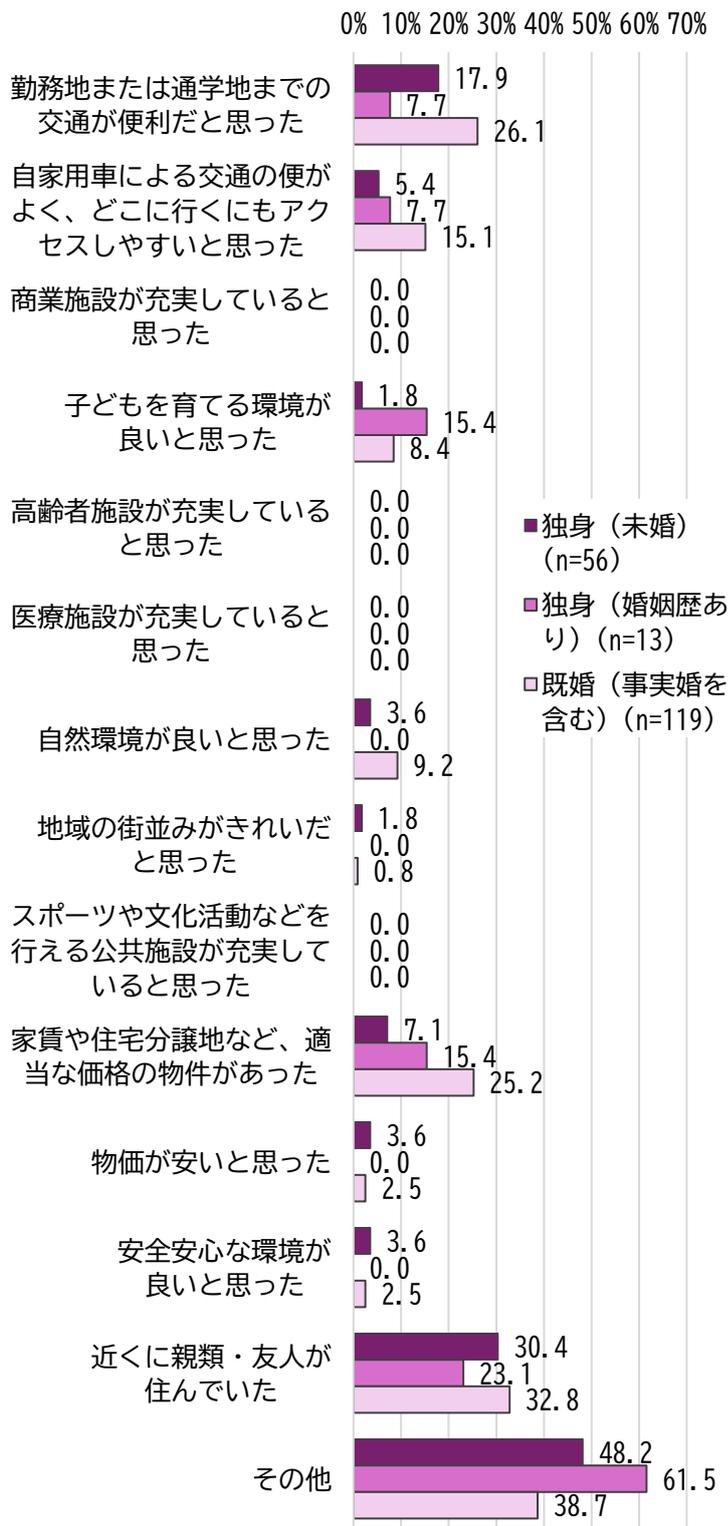
<職業（就業状況）と転入理由のクロス分析>



就業状況別でみると、「勤務地または通学地までの交通が便利だと思った」では、就業者（フルタイム）と就業者（パート・アルバイト）との差が最も大きくなっており(21.8ポイント差)、就業者（フルタイム）のほうが交通の利便性を重視している。

「家賃や住宅分譲地など、適当な価格の物件があった」では、就業者（フルタイム）と非就業者（主婦・学生・無職）との差が大きく(14.7ポイント差)、就業者（フルタイム）のほうが住居の価格を重視している。

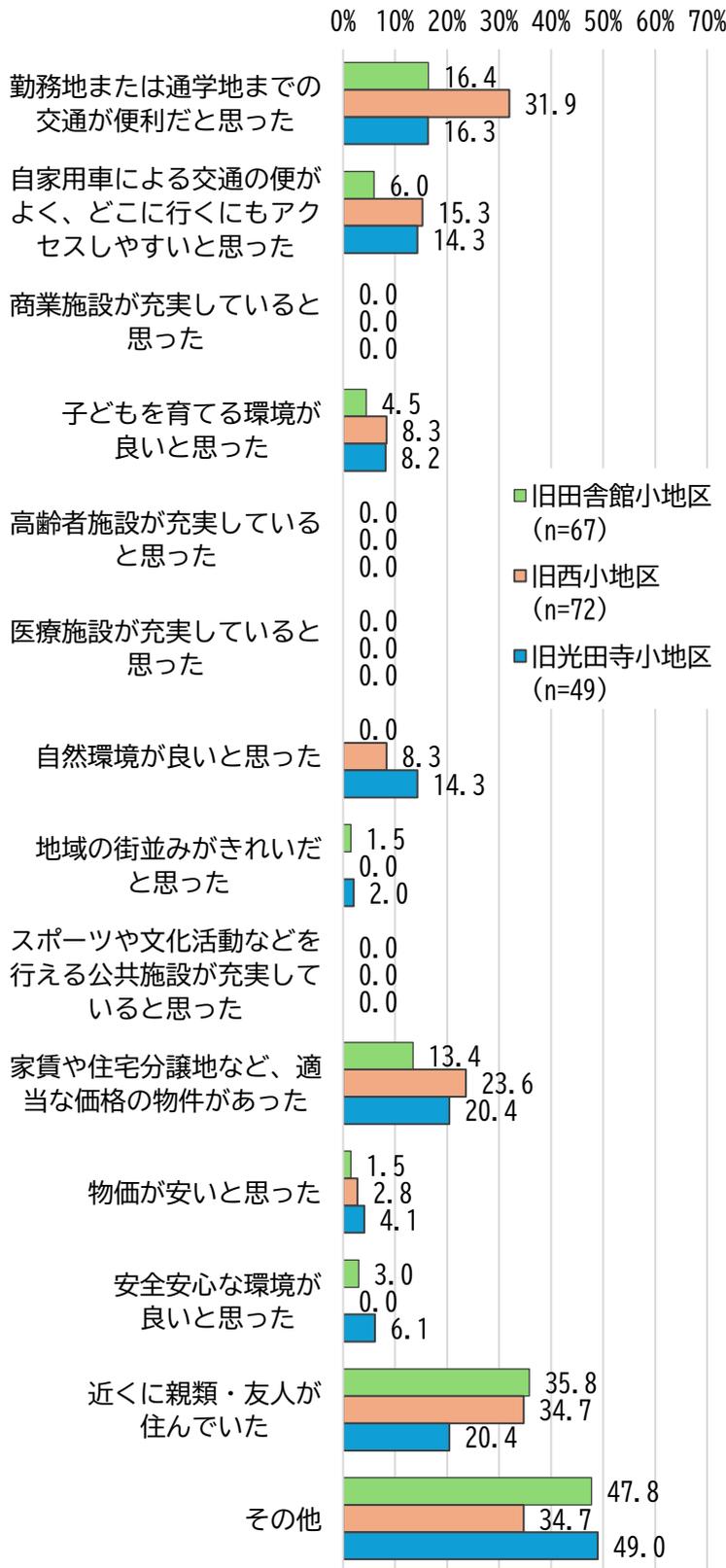
<婚姻状況と転入理由のクロス分析>



婚姻状況別でみると、「勤務地または通学地までの交通が便利だと思った」では、既婚（事実婚を含む）と独身（婚姻歴あり）との差が最も大きくなっており（18.4ポイント差）、既婚（事実婚を含む）のほうが、交通の利便性を重視している。

「家賃や住宅分譲地など、適当な価格の物件があった」では、既婚（事実婚を含む）と独身（未婚）との差が大きく（18.1ポイント差）、既婚（事実婚）のほうが住居の価格を重視している。

<居住地区と転入理由のクロス分析>



居住地区別でみると、「勤務地または通学地までの交通が便利だと思った」では、旧西小地区（31.9%）は旧光田寺小地区（16.3%）と旧田舎館小地区（16.4%）よりそれぞれ15.6、15.5ポイント高くなっている。

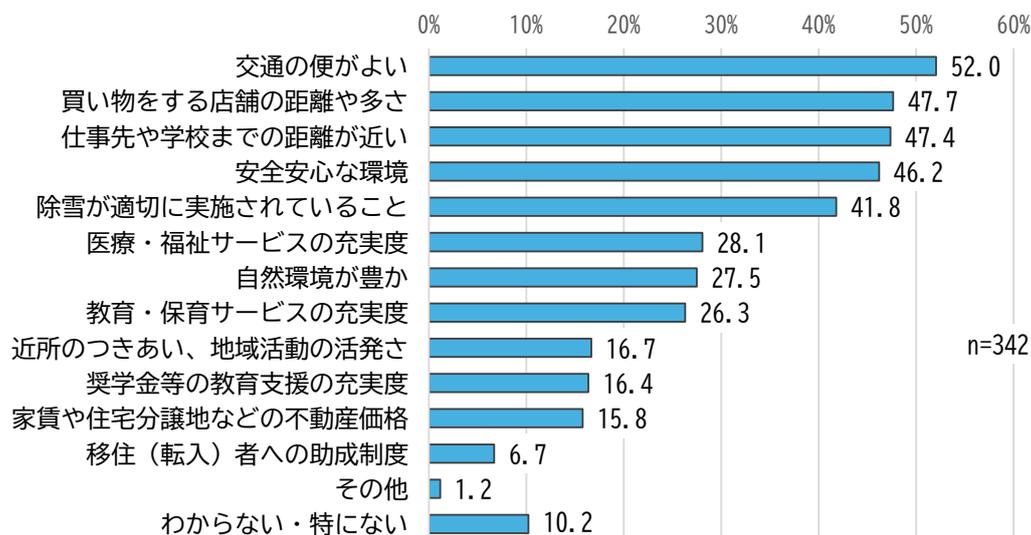
「近くに親類・友人が住んでいた」では、旧田舎館小地区（35.8%）と旧西小地区（34.7%）は旧光田寺小地区（20.4%）よりそれぞれ15.4%と14.3ポイント高くなっている。逆に言うと、旧光田寺小地区は他の2地区よりも親類や知人の有無を重視していないといえる。

「自然環境が良いと思った」では、旧光田寺小地区（14.3%）は旧田舎館小地区（0.0%）より14.3%高くなっている。

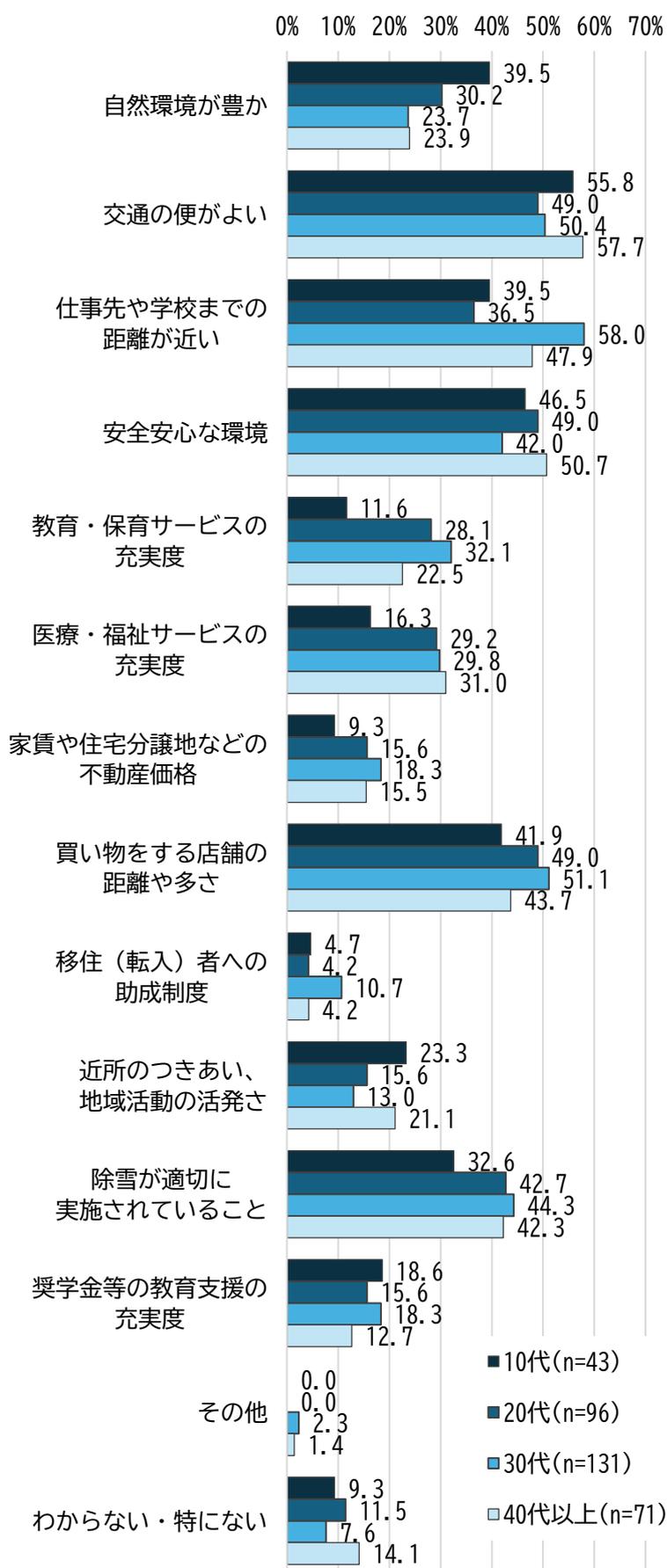
「家賃や住宅分譲地など、適当な価格の物件があった」では、旧西小地区（23.6%）は旧田舎館小地区（13.4%）より10.2ポイント高くなっている。

問 13 あなたが、住む場所で重要な要素として感じている点は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

全体として、「交通の便がよい」の割合が 52.0%と最も高く、次いで、「買い物をする店舗の距離や多さ」が 47.7%、「仕事先や学校までの距離が近い」が 47.4%となっている。



<年齢と居住地選択で重視する点のクロス分析>



年齢別でみると、「仕事先や学校までの距離が近い」では、30代と20代または10代との差が大きく(21.5ポイントと18.5ポイントの差)、30代は仕事先までの距離を重視している。

「教育・保育サービスの充実度」では、30代と10代の差が大きく(20.5ポイント差)、30代はより子育て環境を重視している。

「除雪が適切に実施されていること」では、10代の割合のみ低く、その他の年代では高くなっている。

「自然環境が豊か」では、10代と30代、40代との差が大きく(15.8ポイントと15.6ポイントの差)、10代のほうが他の年代よりも自然環境を重視している。

「医療・福祉サービスの充実度」では、40代の割合が最も高く、10代より14.7ポイント高くなっている。

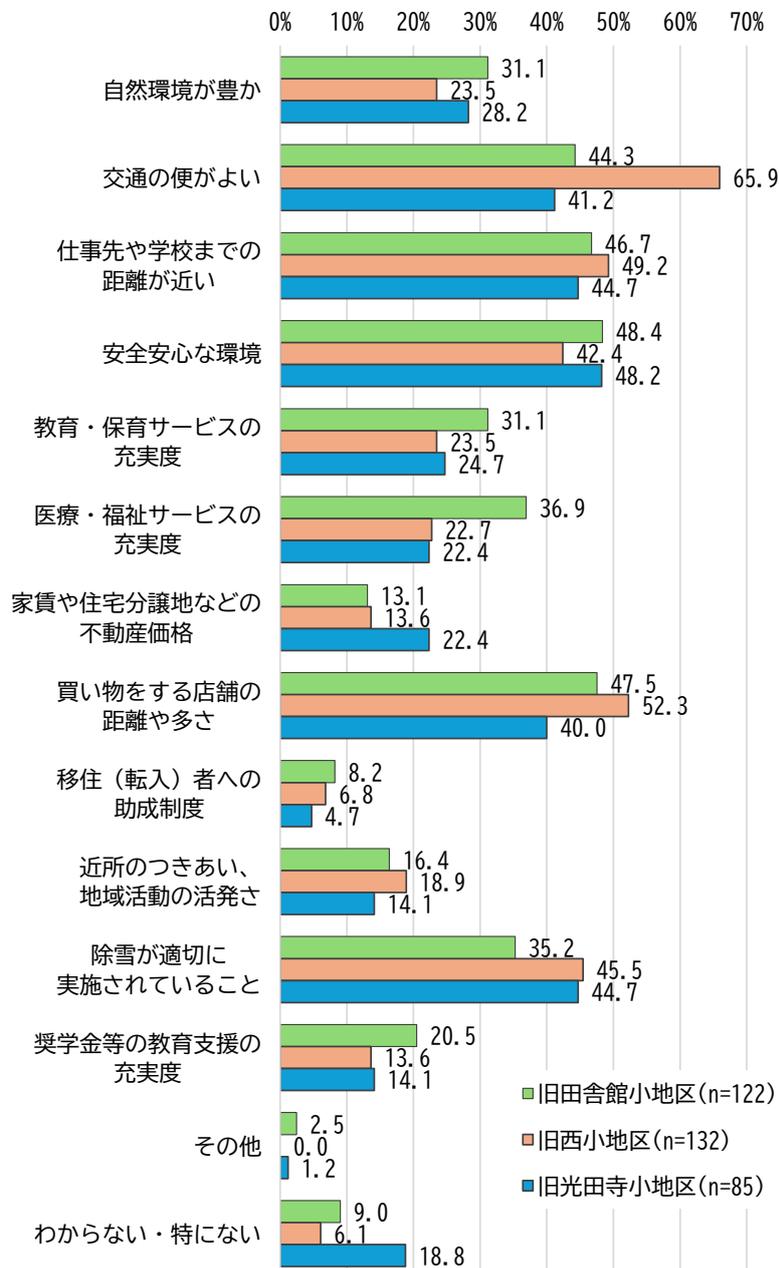
居住地区別でみると、「交通の便がよい」では、旧西小地区の割合が高く（65.9%）、旧田舎館小地区や旧光田寺小地区と大きな差があり（それぞれ 21.6 ポイントと 24.7 ポイント差）、旧西小地区は交通の便を重視している。

「買い物をする店舗の距離や多さ」では、旧西小地区の割合が最も高く（52.3%）、旧光田寺小地区より 12.3 ポイント高くなっており、旧西小地区は買い物の利便性を重視している。

「医療・福祉サービスの充実度」では、旧田舎館小地区の割合（36.9%）が最も高く、旧西小地区と旧光田寺小地区よりそれぞれ 14.2 ポイントと 14.5 ポイント高くなっており、旧田舎館小地区は医療・福祉サービスを重視している。

「除雪が適切に実施されていること」においては、旧西小地区（45.5%）は旧田舎館小地区（35.2%）より 10.2 ポイント高くなっており、旧西小地区は除雪を重視している。

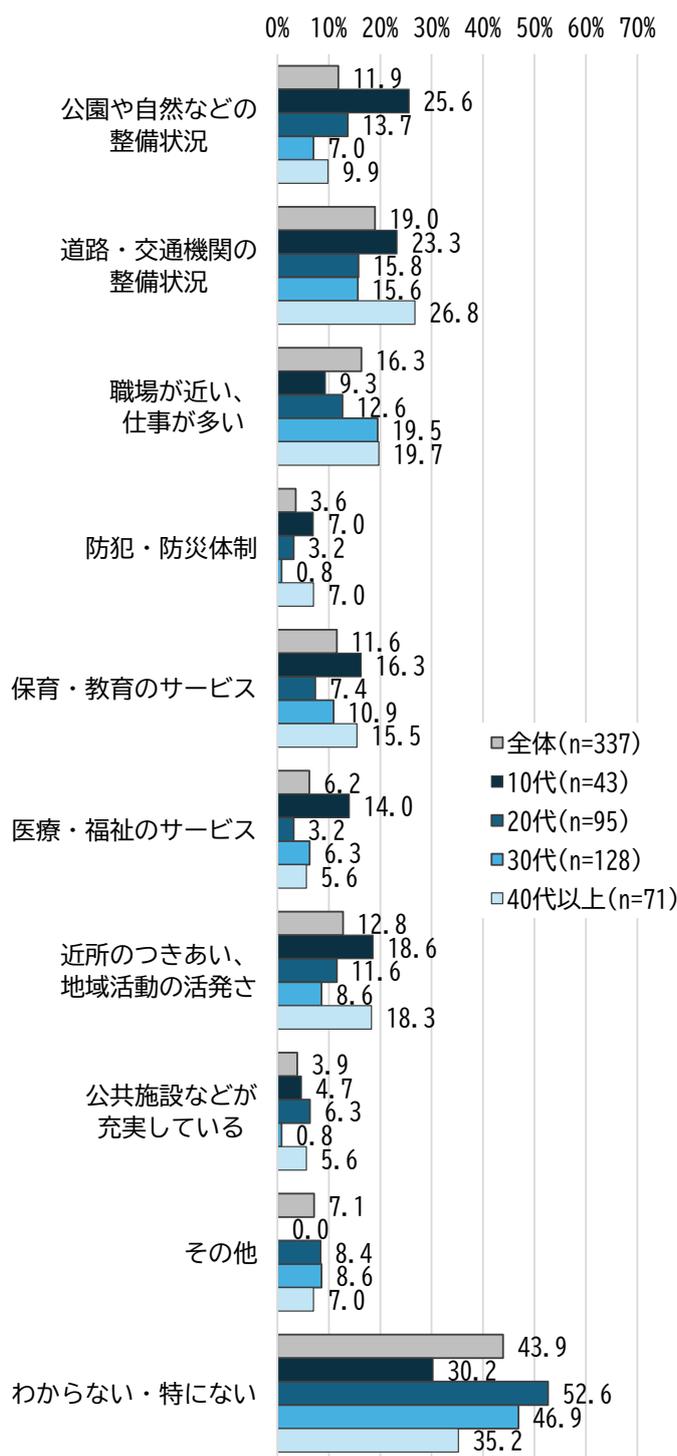
<居住地区と居住地選択で重視する点のクロス分析>



問 14 田舎館村が他市町村より住みやすいと感じる点はどういった点ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

全体として、「道路・交通機関の整備状況」の割合が19.0%と最も高く、次いで、「職場が近い、仕事が多い」が16.3%、「近所のつきあい、地域活動の活発さ」が12.8%となっている。

<年齢と田舎館村の住みやすい点のクロス分析>



年齢別で見ると、「公園や自然などの整備状況」では、10代(25.6%)と30代(7.0%)で18.6ポイント差があり、若い年代ほどこの項目を住みやすさの要因と感じている。

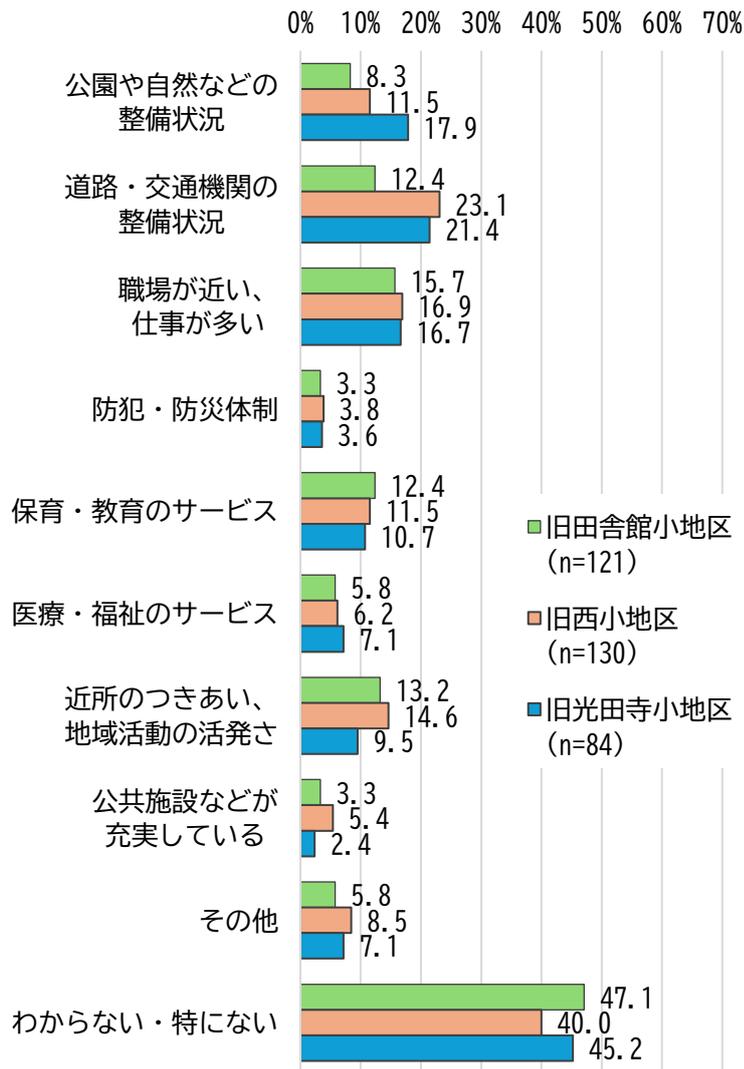
「職場が近い、仕事が多い」では、10代(9.3%)と40代(19.7%)で10.4ポイント差があり、年代が高いほど、この項目を住みやすさの要因と感じている。

「道路・交通機関の整備状況」では、40代の割合(26.8%)が最も高く、20代(15.8%)と30代(15.6%)よりそれぞれ11.0ポイントと11.1ポイント高くなっている。

「医療・福祉のサービス」では、10代(14.0%)と20代(3.2%)で10.8ポイント差があり、20代はこの項目を住みやすさの要因と感じている。

「近所の付き合い、地域活動の活発さ」では、10代(18.6%)は30代(8.6%)より10ポイント高くなっており、10代はこの項目を住みやすさの要因と感じている。

<居住地区と田舎館村の住みやすい点のクロス分析>



居住地区別でみると、「道路・交通機関の整備状況」では、旧西小地区（23.1%）は旧田舎館小地区（12.4%）より10.7ポイント高くなっており、旧西小地区は道路・交通機関の整備状況を住みやすさの要因と感じている。

問 15 あなたは、将来的に田舎館村外へ引っ越すご予定はありますか。(1つに○)

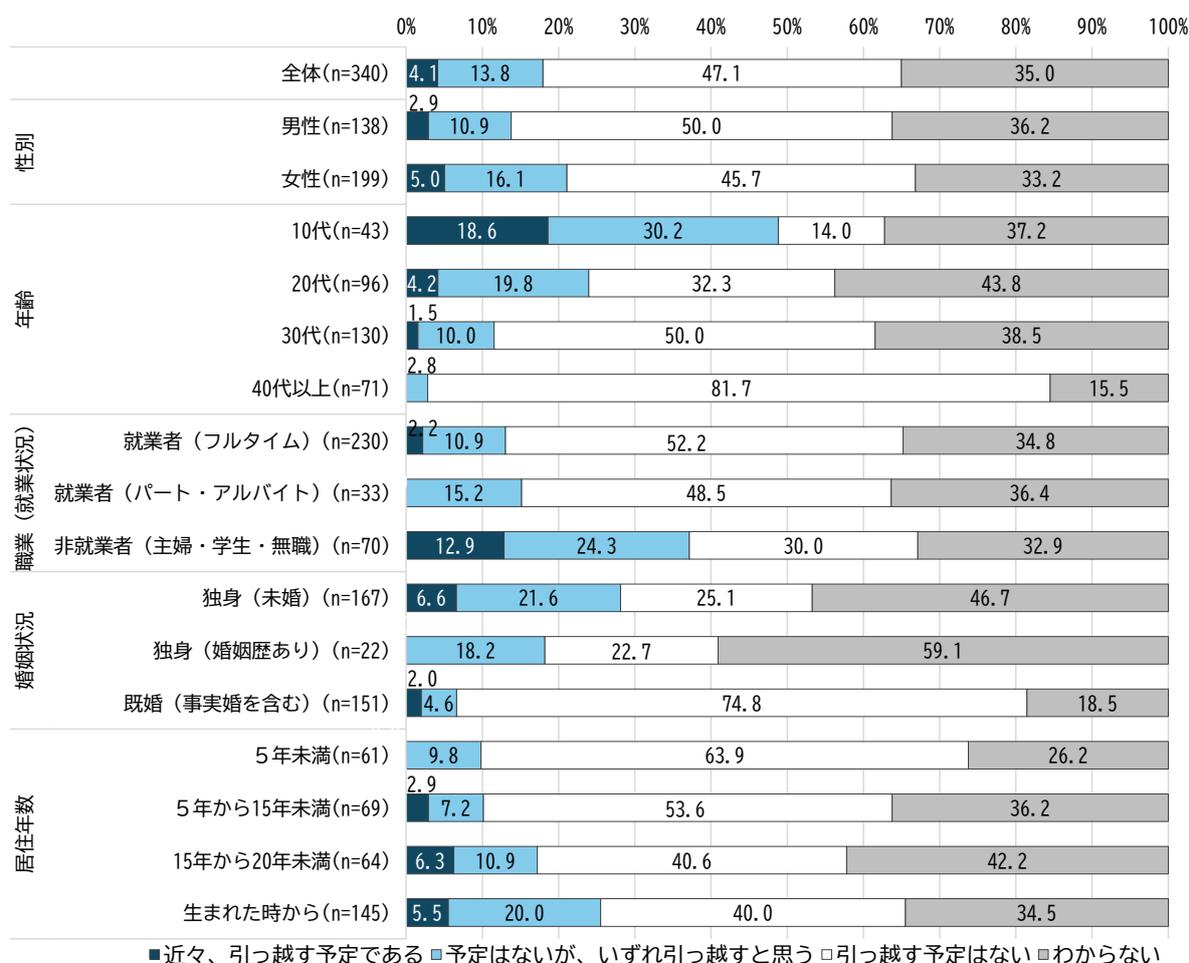
全体として、「引っ越す予定はない」の割合が47.1%と最も高く、「予定はないが、いずれ引っ越すと思う」(13.8%)と「近々、引っ越す予定である」(4.1%)の合計が17.9%となっている。

「予定はないが、いずれ引っ越すと思う」と「近々、引っ越す予定である」の合計値を年齢別で見ると、年齢が若いほど割合が高い傾向がみられ、10代の割合(48.8%)が最も高く、20代、30代、40代よりそれぞれ24.9ポイント、37.3ポイント、46.0ポイント高くなっている。

就業状況別にみると、フルタイム(13.0%)とパート・アルバイト(15.2%)より非就業者(37.1%)のほうがそれぞれ24.1ポイントと22.0ポイント高くなっている。

婚姻状況別で見ると、既婚(6.6%)より独身(未婚)(28.1%)と独身(婚姻歴あり)(18.2%)のほうがそれぞれ21.5ポイントと11.6ポイントの差で高くなっている。

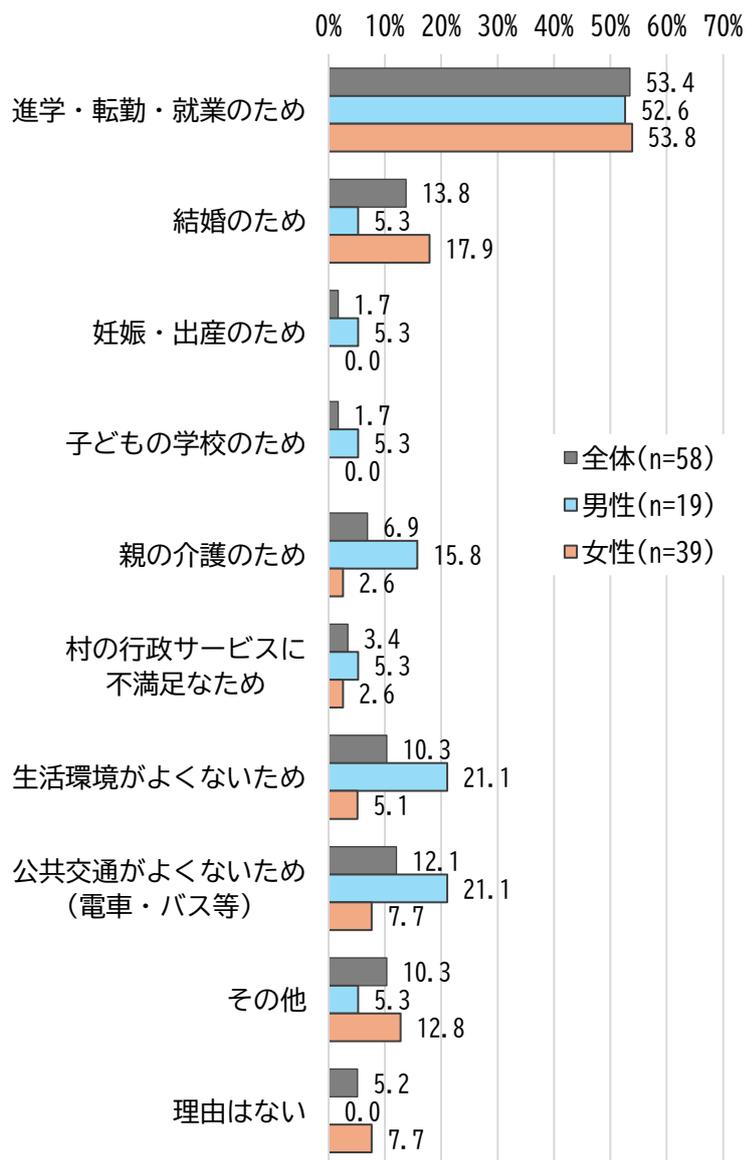
居住年数別で見ると、「生まれた時から」の割合(25.5%)が最も高く、「5年未満」と「5年から15年未満」よりそれぞれ15.7ポイントと15.4ポイントと高くなっている。そして居住年数が長いほど割合が高い傾向もみられる。



問 15-1 引っ越す理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

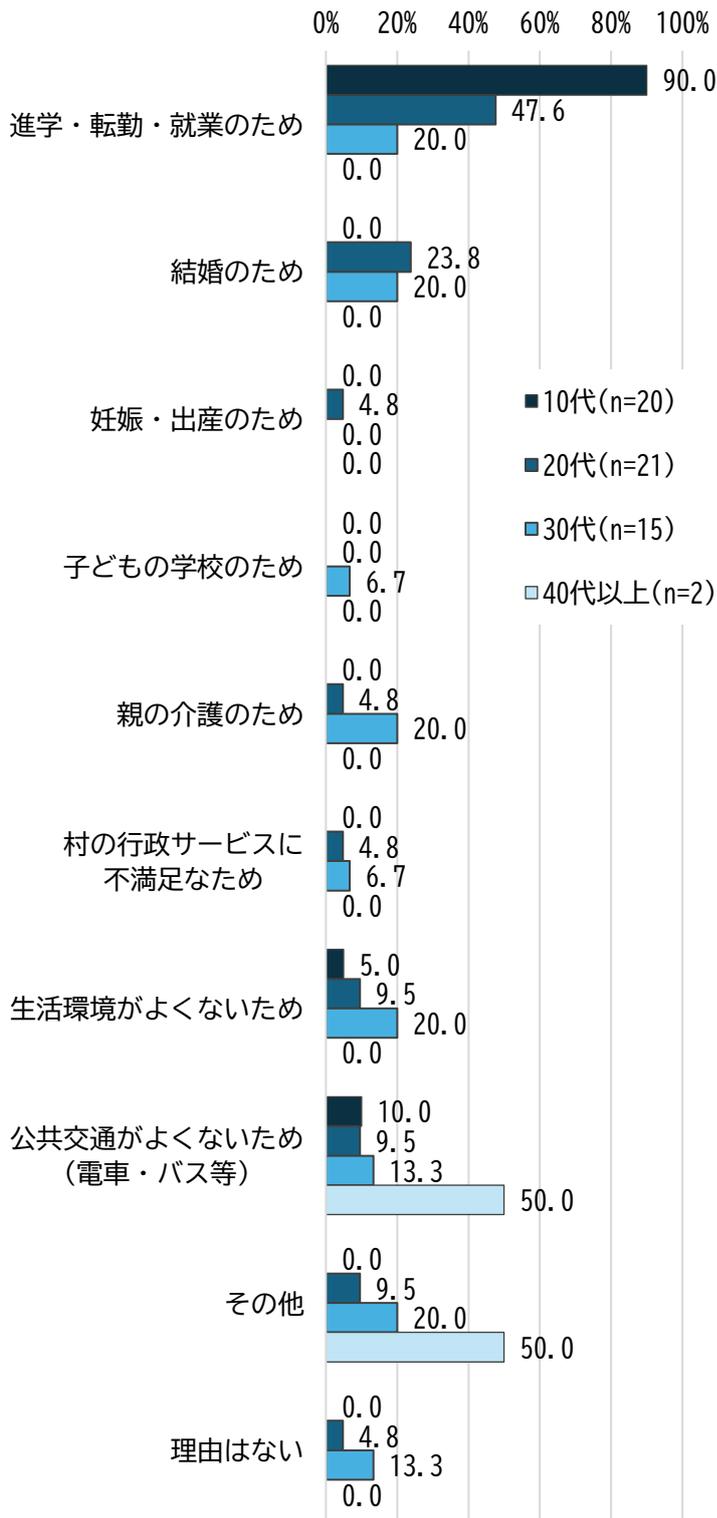
「近々、引っ越す予定である」と「予定はないが、いずれ引っ越すと思う」を選んだ方を対象に引っ越す理由について尋ねたところ、全体として、「進学・転勤・就業のため」の割合が53.4%と最も高く、次いで、「結婚のため」が13.8%、「公共交通がよくないため（電車・バス等）」が12.1%となっている。

<性別と転出理由のクロス分析>



性別で見ると、「生活環境がよくないため」、「公共交通がよくないため（電車・バス等）」と「親の介護のため」においては、男性（それぞれ21.1%、21.1%と15.8%）のほうが女性（それぞれ5.1%、7.7%と2.6%）よりそれぞれ15.9ポイント、13.4ポイントと13.2ポイント高くなっているのに対し、「結婚のため」では、男性（5.3%）より女性（17.9%）のほうが12.7ポイント高くなっている。

<年齢と転出理由のクロス分析>



年齢別で見ると、「進学・転勤・就業のため」では、10代の割合が90.0%と最も高く、年代が上がるにつれ割合は低くなっている。

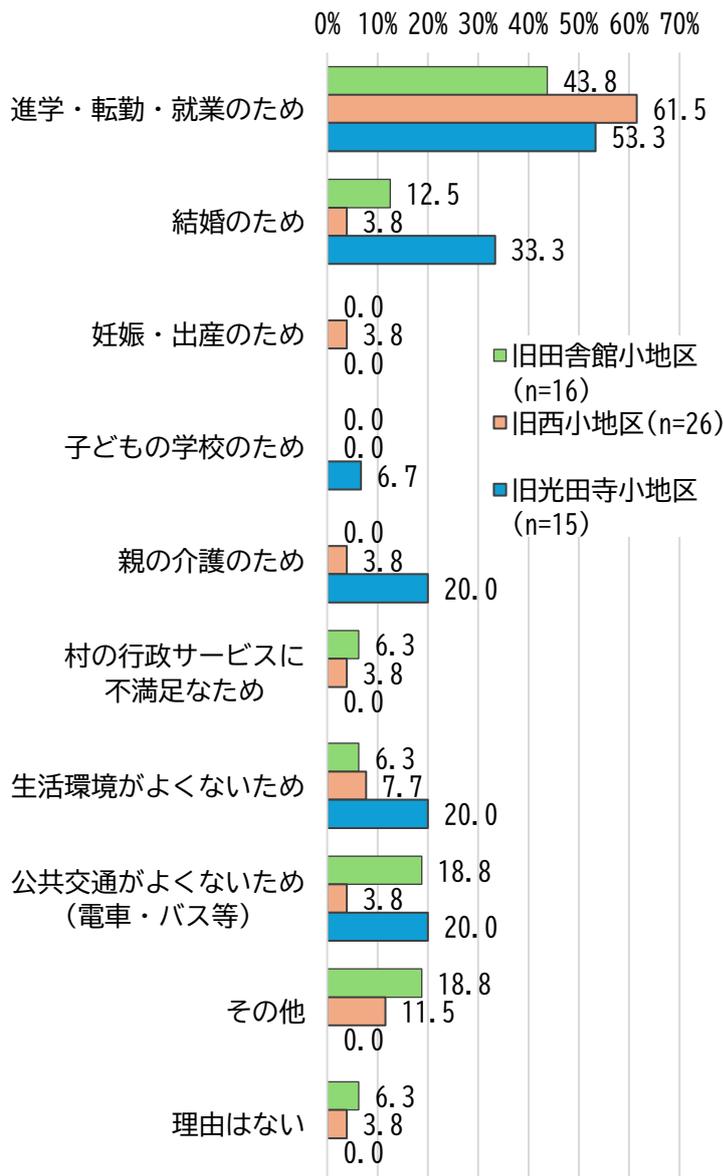
「結婚のため」では、20代と30代のみで、この理由で転出する10代はいない。

「親の介護のため」では、30代の割合が最も高く、この理由で転出する10代はいない。

「生活環境がよくないため」では、30代の割合が最も高い。

※この分析では40代以上が2人のみであるため、分析は10代から30代のみ言及している。

<居住地区と転出理由のクロス分析>



居住地区別でみると、「進学・転勤・就業のため」において、旧西小地区（61.5%）が旧田舎館小地区（43.8%）より 17.8 ポイント高くなっている。

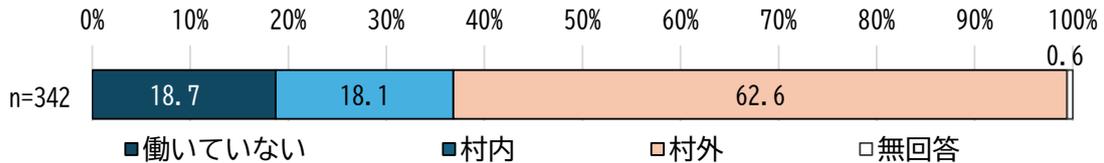
「結婚のため」、「親の介護のため」と「生活環境がよくないため」において、旧光田寺小地区の割合が最も高く、「結婚のため」において旧田舎館小地区と旧西小地区よりそれぞれ 29.5 ポイントと 20.8 ポイント高くなっており、「親の介護のため」において旧田舎館小地区と旧西小地区よりそれぞれ 20.0 ポイントと 16.2 ポイント高くなっており、「生活環境がよくないため」においては旧田舎館小地区と旧西小地区よりそれぞれ 13.8 ポイントと 12.3 ポイント高くなっている。

「公共交通がよくないため（電車・バス等）」では、旧田舎館小地区（18.8%）と旧光田寺小地区（20.0%）が旧西小地区（3.8%）よりそれぞれ 14.9 ポイントと 16.2 ポイント高くなっている。

5 働くことについて

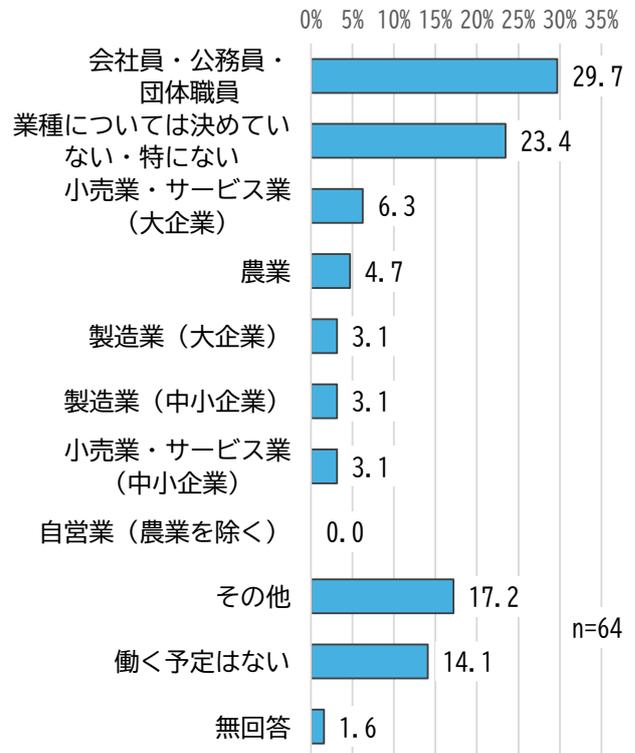
問 16 あなたは、現在、どこで働いていますか（就労形態は問いません）。（1つに○）

勤務地が村内と村外の割合はそれぞれ 18.1%と 62.6%となっており、村外のほうが 44.5 ポイント高くなっている。「働いていない」の割合は 18.7%となっている。

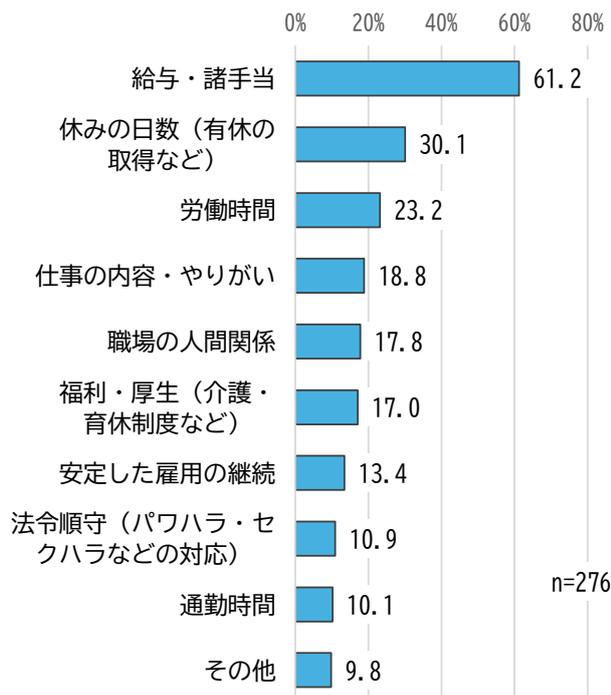


「働いていない」と答えた方を対象に就労希望分野について尋ねたところ、「会社員・公務員・団体職員」の割合が 29.7%と最も高く、次いで、「業種については決めていない・特にない」が 23.4%、「働く予定がない」が 14.1%と続いている。

<就業希望分野（働いていない方）>

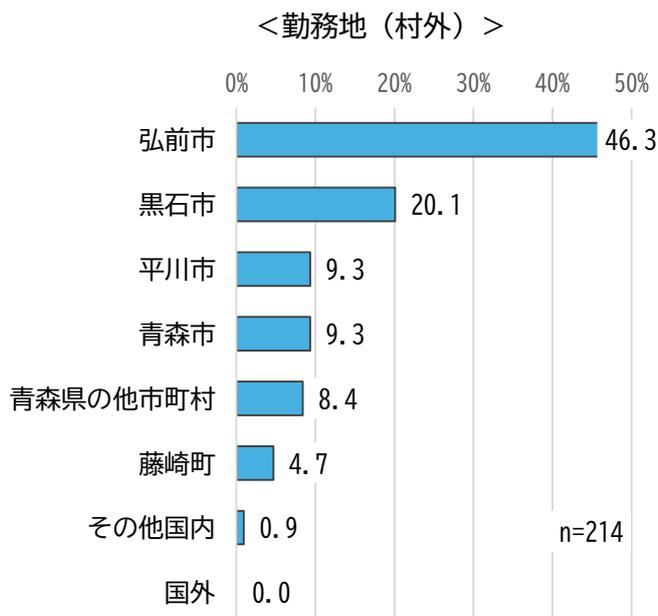


<仕事環境についての改善要望>

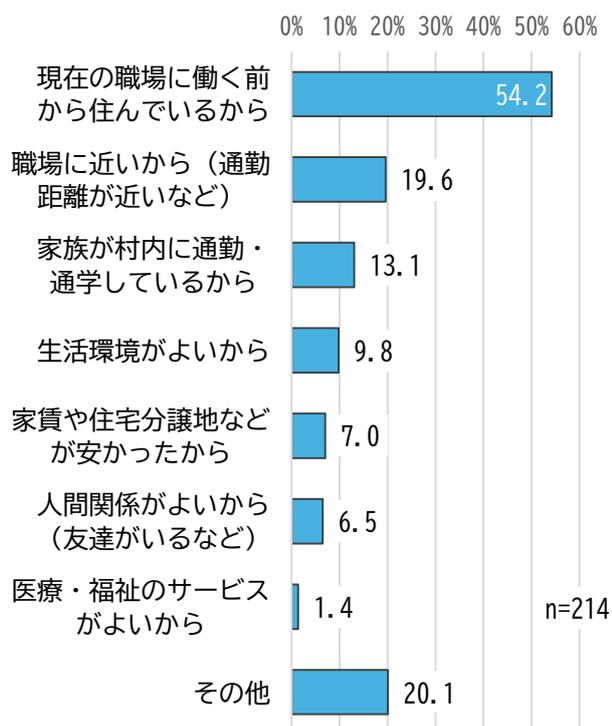


勤務地を「村内」または「村外」と選択した方を対象に仕事環境についての改善要望を尋ねたところ、「給与・諸手当」の割合が 61.2%と最も高く、次いで、「休みの日数 (有休の取得など)」が 30.1%、「労働時間」が 23.2%となっている。

勤務地を「村外」と選択した方を対象にどこで働いているかを尋ねたところ、「弘前市」の割合が46.3%と最も高く、次いで、「黒石市」が20.1%となっている。「国外」はない。



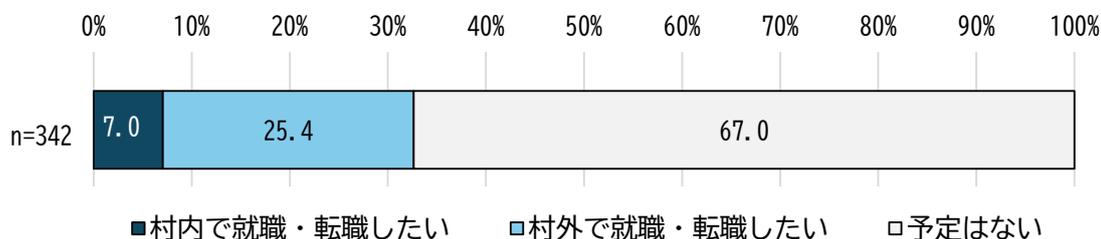
<田舎館村に住む理由（勤務地（村外）>



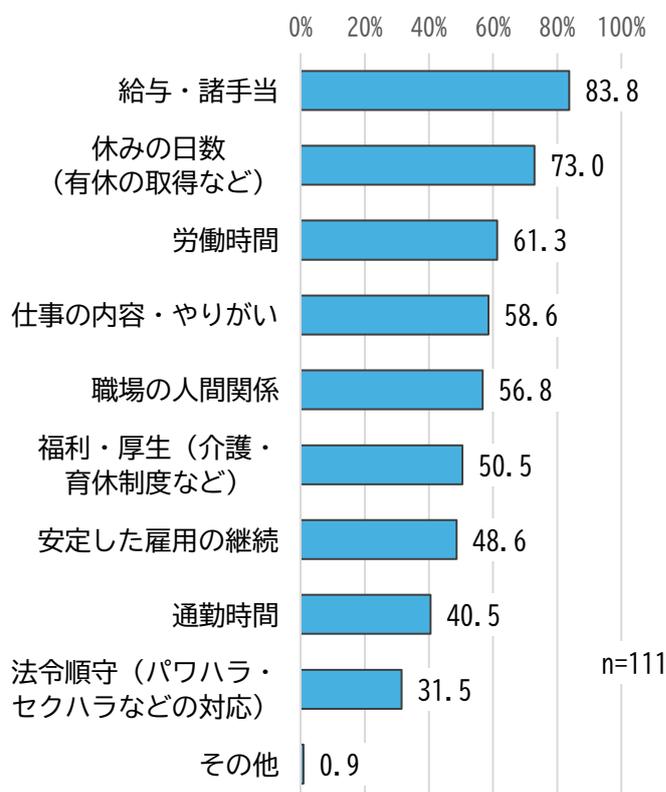
勤務地を「村外」と選択した方を対象に現在働いている場所と異なる田舎館村に住んでいる理由は何かと尋ねたところ、「その他」を除いて、「現在の職場に働く前から住んでいるから」の割合が54.2%と最も高く、次いで、「職場に近いから (通勤距離が近いなど)」が19.6%、「家族が村内に通勤・通学しているから」が13.1%と続いている。

問 17 あなたは、今後、新たに職に就く、もしくは転職する予定はありますか。(1つに○)

「村内で就職・転職したい」(7.0%)より「村外で就職・転職したい」(25.4%)の割合が18.4ポイント高くなっており、就職する「予定はない」が67.0%となっている。



<仕事の選択基準(就職・転職希望者)>

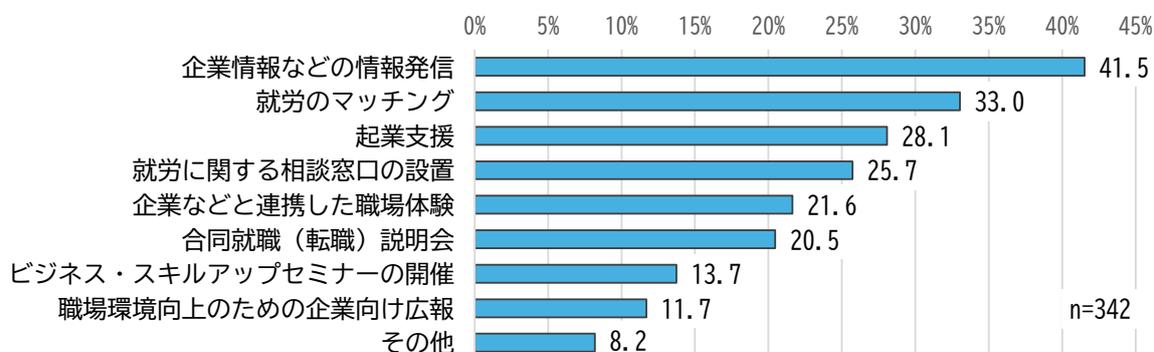


「村内で就職・転職したい」または「村外で就職・転職したい」と答えた方を対象に仕事を選択する上で何を重視するかと尋ねたところ、「給与・諸手当」の割合が83.8%と最も高く、次いで、「休みの日数(有休の取得など)」が73.0%、「労働時間」が23.2%となっている。

重視する優先順位は、問16でたずねた「仕事環境についての改善要望」とほぼ同じである。

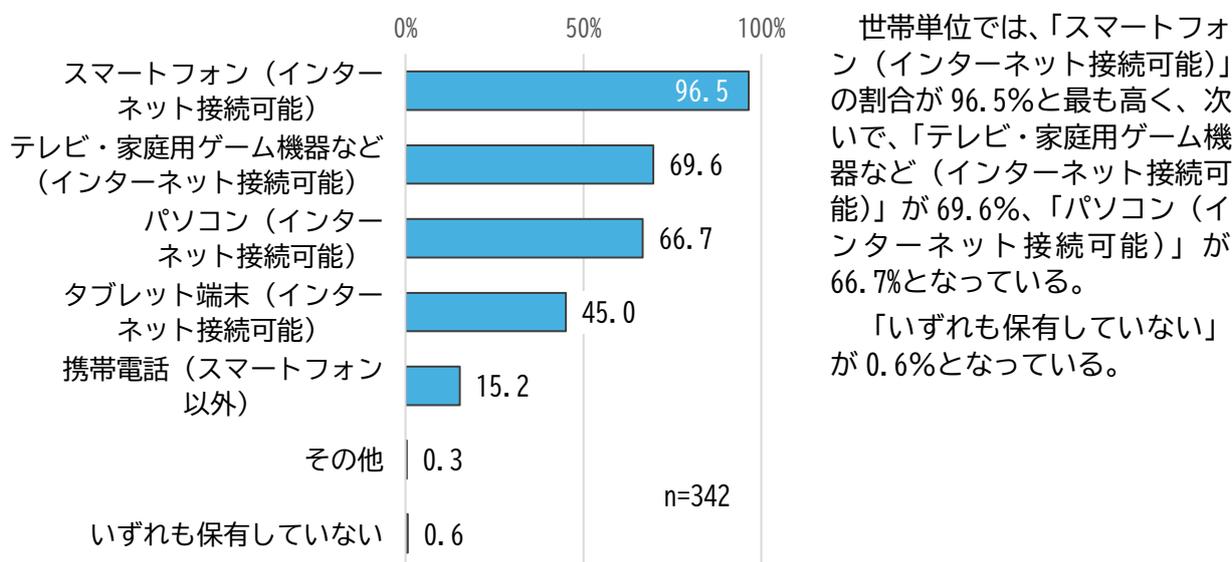
問 18 村内で、よりよい働く場所の拡充を進めるために、行政が取り組むべき対策として、必要だと感じるものは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

全体として、「企業情報などの情報発信」の割合が41.5%と最も高く、次いで、「就労のマッチング」が33.0%、「起業支援」が28.1%となっている。



6 デジタル（パソコン・スマホ等）の活用について

問 19 あなたの世帯では、以下のような情報通信機器を利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)



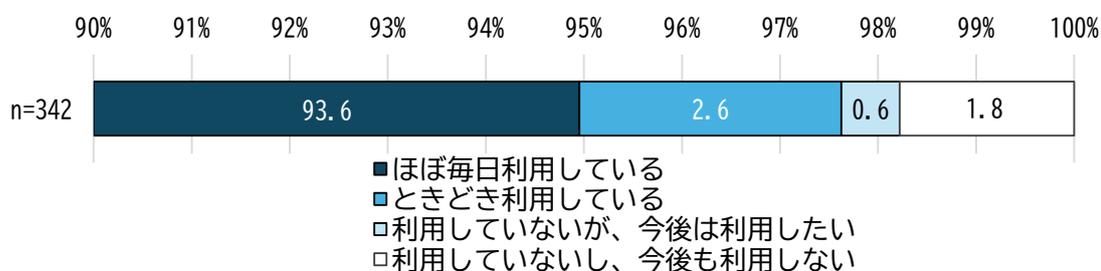
世帯単位では、「スマートフォン(インターネット接続可能)」の割合が96.5%と最も高く、次いで、「テレビ・家庭用ゲーム機器など(インターネット接続可能)」が69.6%、「パソコン(インターネット接続可能)」が66.7%となっている。

「いずれも保有していない」が0.6%となっている。

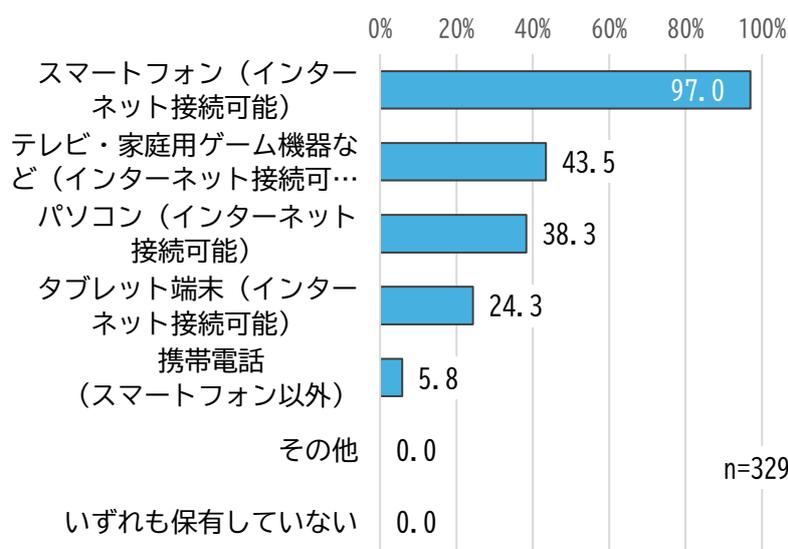
問 20 あなたは普段インターネットを利用していますか。(1つに○)

回答者自身が普段インターネットを「ほぼ毎日利用している」の割合が93.6%と最も高く、次いで、「ときどき利用している」が2.6%となっている。

「利用していないが、今後は利用したい」と「利用していないし、今後も利用しない」の合計は2.4%となっている。

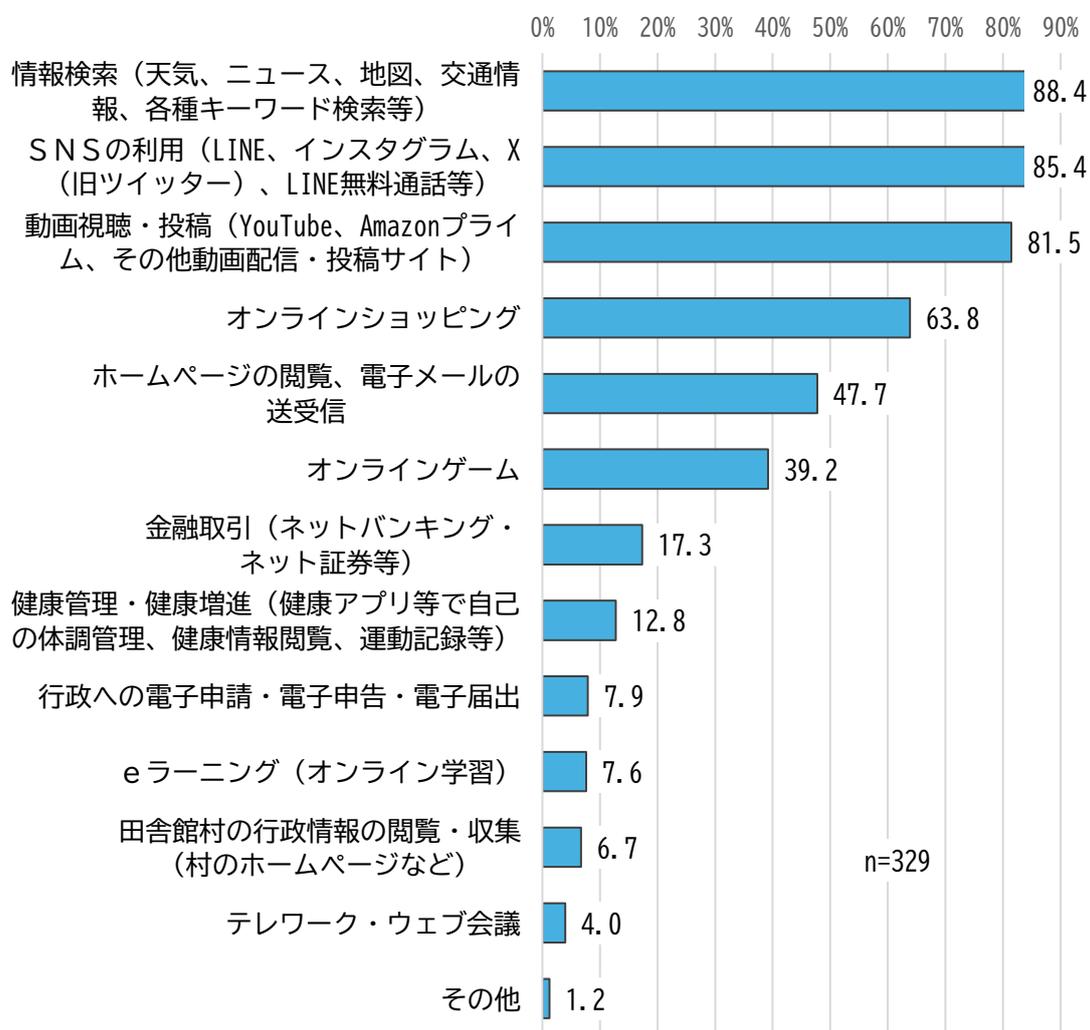


<利用している情報通信機器（回答者自身）>



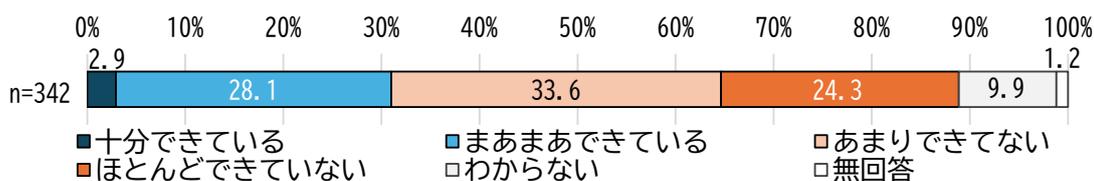
回答者が利用している情報通信機器について尋ねたところ、「スマートフォン（インターネット接続可能）」の割合が97.0%と最も高く、次いで「テレビ・家庭用ゲーム機器など（インターネット接続可能）」が43.5%、「パソコン（インターネット接続可能）」が38.3%となっている。

普段どのような目的でインターネットを利用しているかについて尋ねたところ、「情報検索」の割合が88.4%と最も高く、次いで「SNSの利用」が85.4%、「動画視聴・投稿」が81.5%となっている。



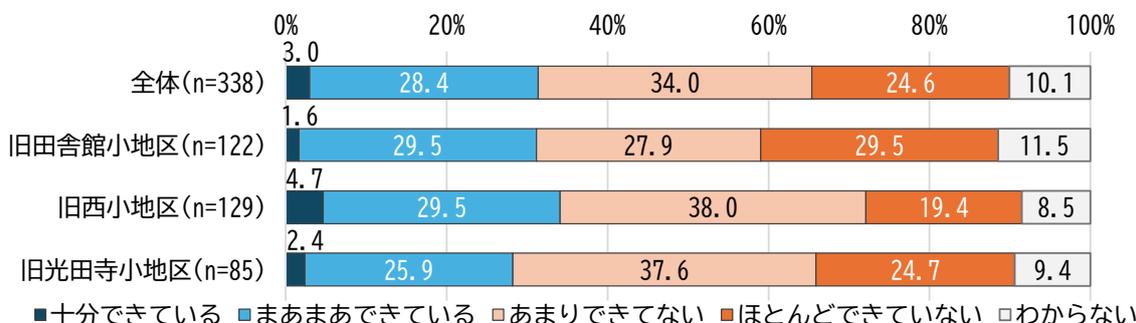
問 21 あなたは村の情報を収集できていますか。(1つに○)

「十分できている」(2.9%)と「まあまあできている」(28.1%)を合わせた割合(31.0%)より、「あまりできてない」(33.6%)と「ほとんどできていない」(24.3%)を合わせた割合(57.9%)のほうが26.9ポイント高くなっている。

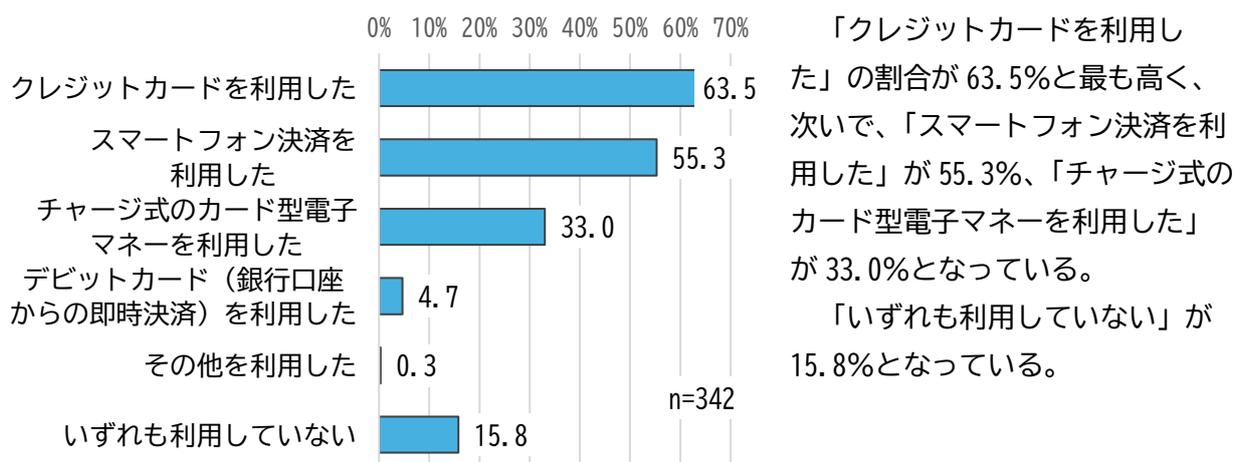


居住地区別でみると、「ほとんどできていない」では、旧田舎館小地区（29.5%）のほうが旧西小地区（19.4%）より10.1ポイント高くなっている。

<居住地区と村の情報収集状況のクロス分析>

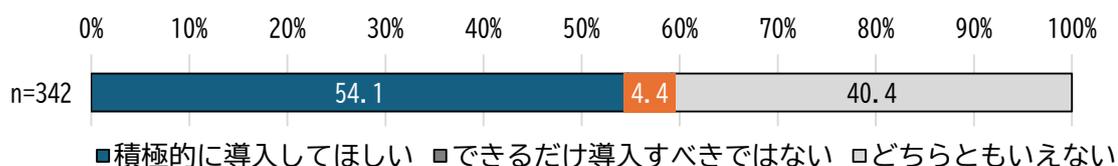


問22 あなたは、過去1年間、キャッシュレス決済（電子的決済手段を指し、小切手や商品券を除く）を利用したことはありますか。利用した決済の種類もお答えください。（あてはまるものすべてに○）



問23 あなたは役場での支払いにおいて、キャッシュレス決済を導入することについてどのようにお考えですか。（1つに○）

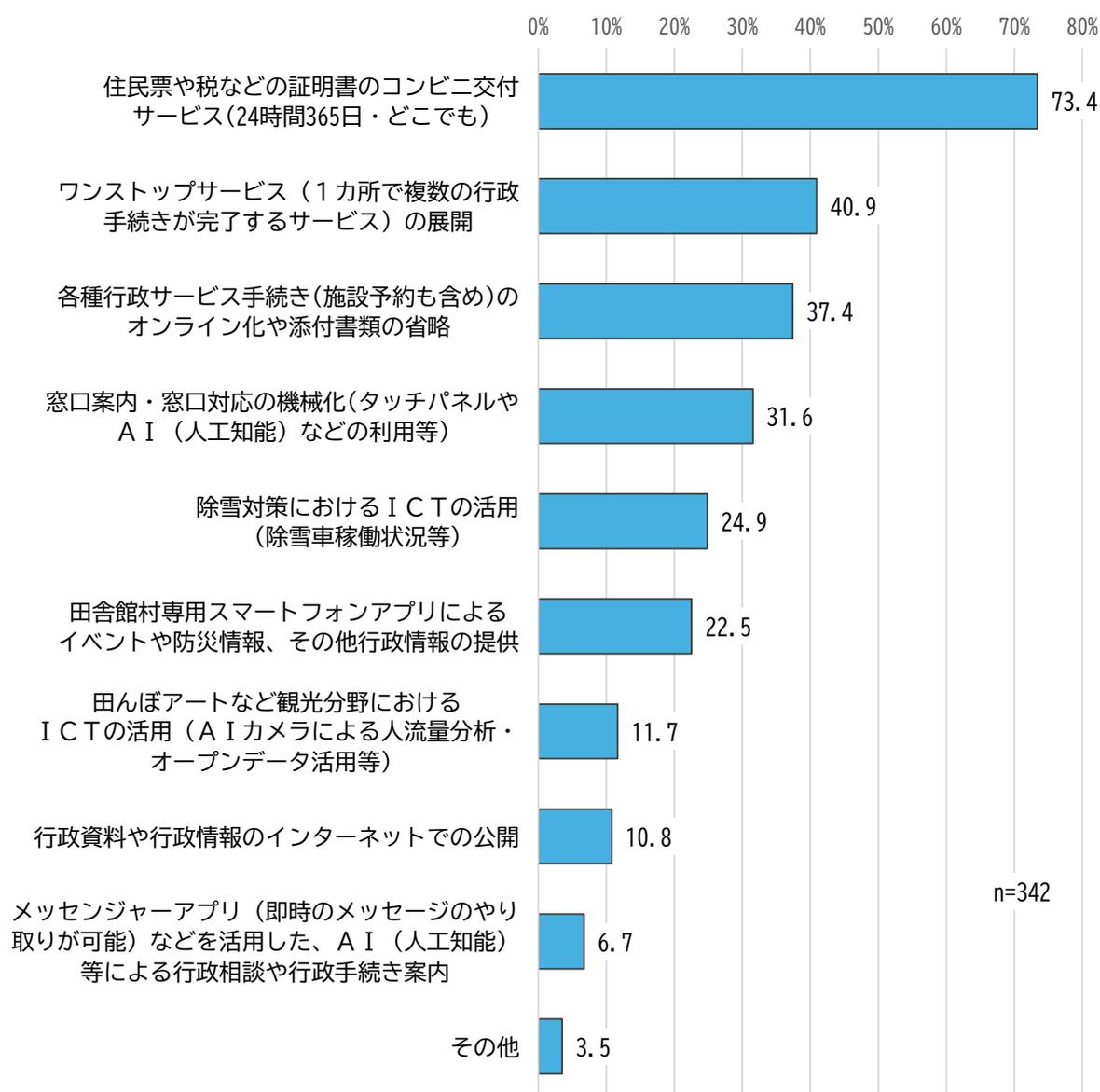
「積極的に導入してほしい」（54.1%）が「できるだけ導入すべきではない」（4.4%）より49.7ポイント高くなっている。「どちらともいえない」は40.4%となっている。



問 24 行政サービスに I C T*を活用する場合、どのような分野に優先的に導入することが望ましいと考えますか。(優先順位の高いものを、3つまで○)

※「I C T」：情報通信技術。コンピュータ関連技術やその活用方法を意味する。

「住民票や税などの証明書のコンビニ交付サービス(24時間365日・どこでも)」の割合が73.4%と最も高く、次いで、「ワンストップサービス(1カ所で複数の行政手続きが完了するサービス)の展開」が40.9%、「各種行政サービス手続き(施設予約も含め)のオンライン化や添付書類の省略」が37.4%となっている。



7 雪対策について

問 25 現在の田舎館村の生活道路の除雪状況について、どのように感じていますか。
(1つに○)

全体として、「満足している」(15.1%)と「どちらかといえば満足している」(50.9)の合計が66.0%となっており、「どちらかといえば満足していない」(21.6%)と「満足していない」(12.4%)の合計が34.0%となっている。

「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計値を年齢別で見ると、年齢が高いほど満足度が低い傾向がみられ、40代(57.1%)が10代(79.1%)より20ポイント以上低くなっている。

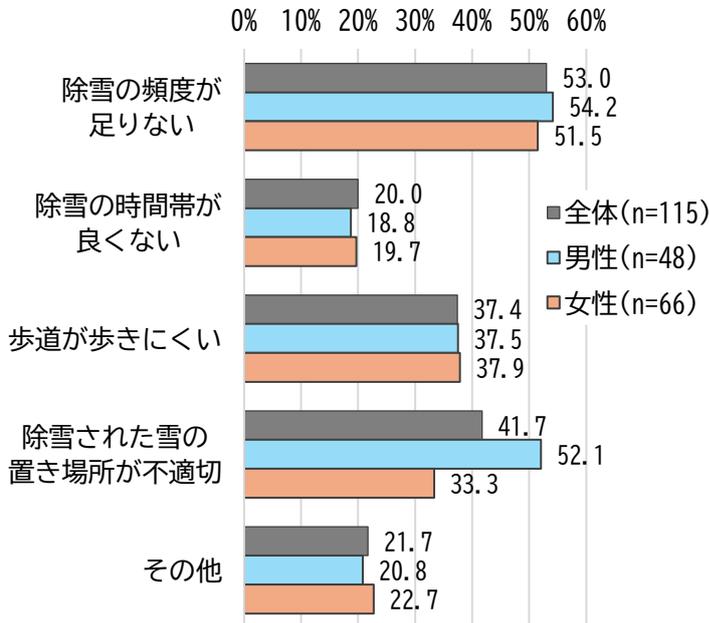
居住地区別で見ると、旧田舎館小地区(60.7%)が旧西小地区(72.1%)より11.4ポイント低くなっている。



■満足している ■どちらかといえば満足している ■どちらかといえば満足していない ■満足していない

問 25-1 満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

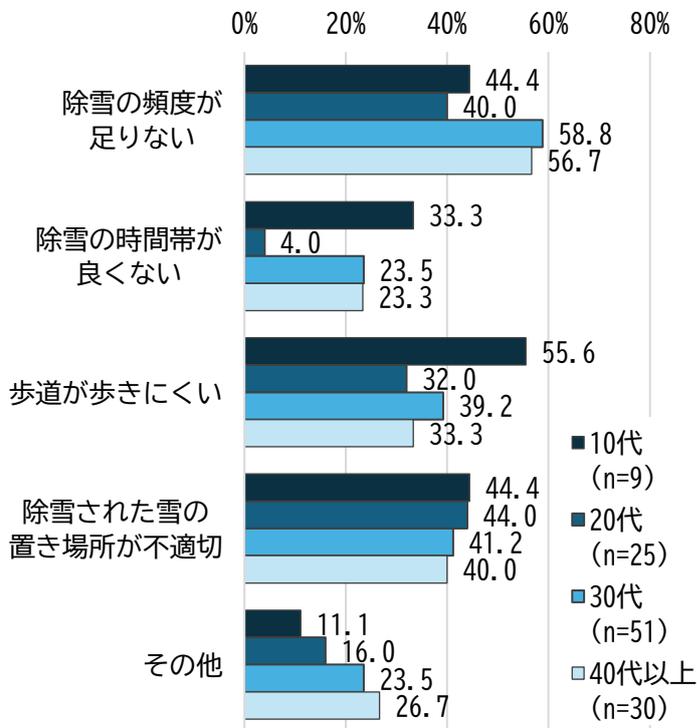
<性別と除雪に満足していない理由のクロス分析>



「どちらかといえば満足していない」または「満足していない」を選択した方を対象に、満足していない理由について尋ねたところ、全体として、「除雪の頻度が足りない」の割合が53.0%と最も高く、次いで、「除雪された雪の置き場所が不適切」が41.7%、「歩道が歩きにくい」が37.4%となっている。

「除雪された雪の置き場所が不適切」では、男性(52.1%)のほうが女性(33.3%)より18.8ポイント高くなっている。

<年齢と除雪に満足していない理由のクロス分析>

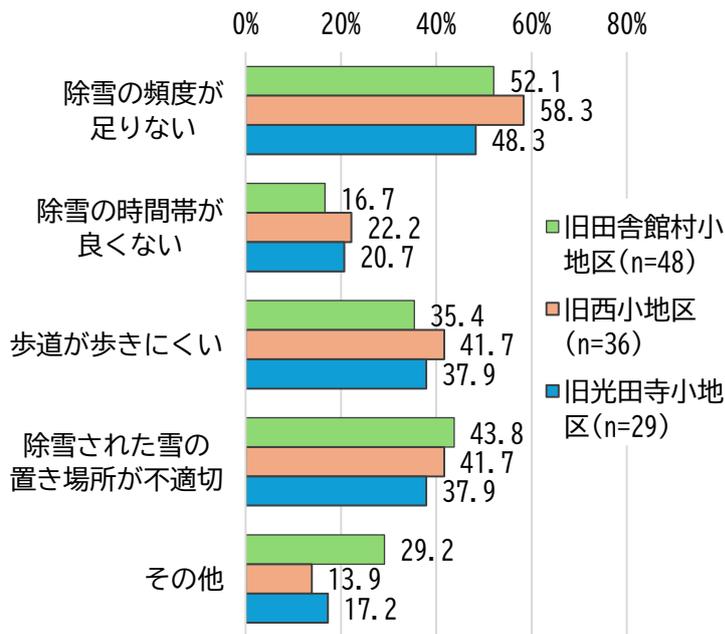


「除雪の頻度が足りない」では、30代と40代の割合が高く、20代よりそれぞれ15ポイント以上高くなっている。

「除雪の時間帯が良くない」では、30代、40代の割合が高く、20代よりも約20ポイント高くなっている。

※この分析では10代が9人のみであるため、分析は20代以上のみ言及している。

<居住地区と除雪に満足していない理由のクロス分析>

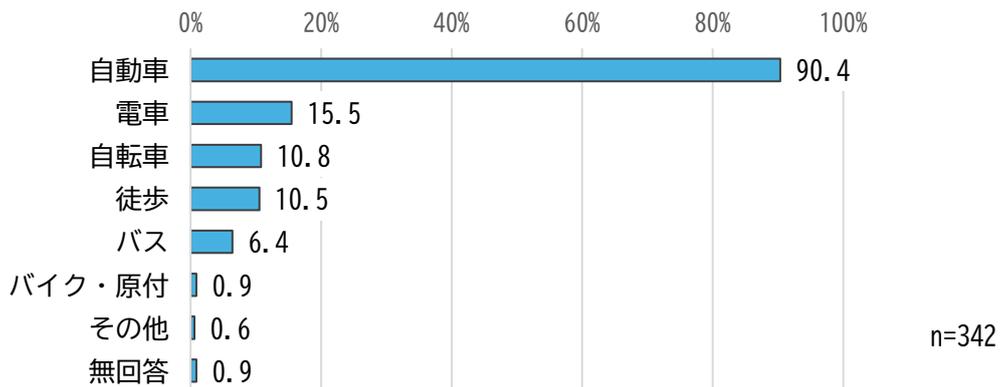


居住地区別でみると、「除雪の頻度が足りない」において、旧西小地区（58.3%）が旧光田寺小地区（48.3%）より 10.1 ポイント高くなっている。

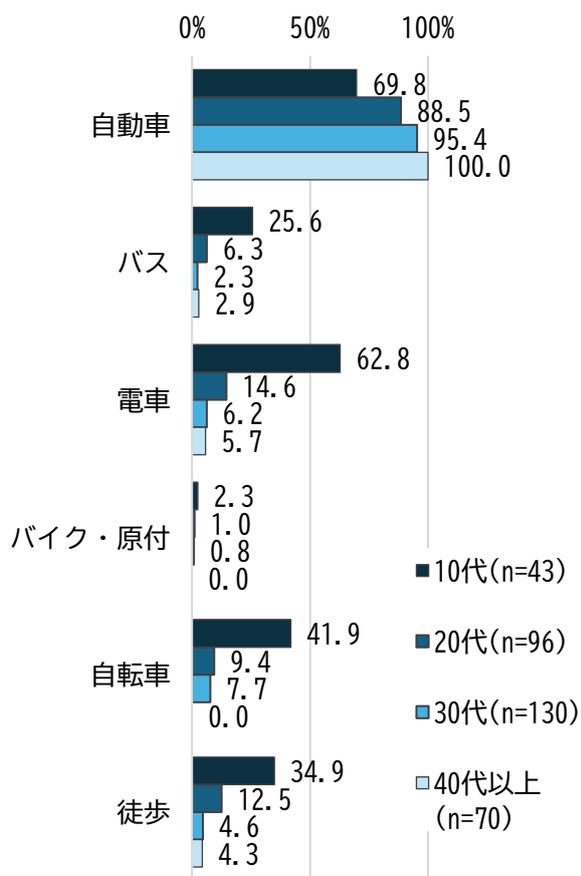
8 公共交通について

問 26 あなたは通勤・通学・お出かけには主にどの交通機関を利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体として、「自動車」の割合が 90.4%と最も高く、「電車」が 15.5%、「自転車」と「徒歩」がそれぞれ 10.8%と 10.5%となっている。



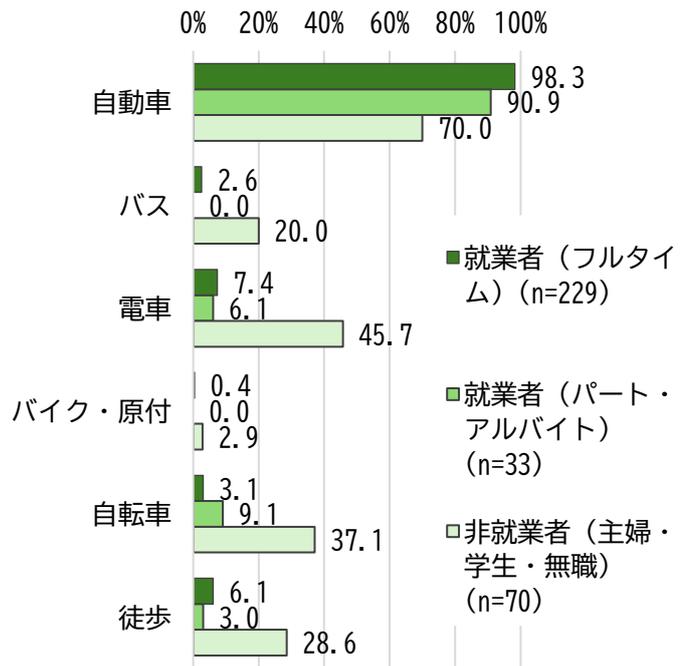
<年齢と利用している交通機関のクロス分析>



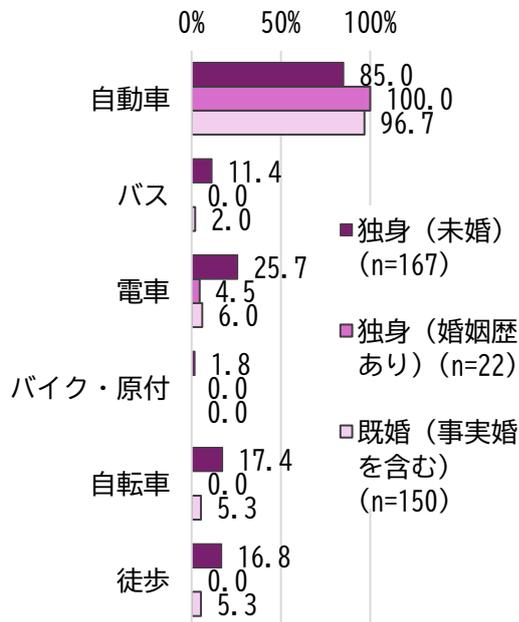
年齢別で見ると、「自動車」では、年齢が高くなると割合が高い傾向がみられ、10代より20代、30代と40代がそれぞれ18.8ポイント、25.6ポイントと30.2ポイント高くなっているのに対し、「バス」、「電車」、「自転車」と「徒歩」において、10代の割合が最も高く、20代、30代と40代と比べ、約20ポイントから約60ポイント高くなっている。

<就業状況と利用している交通機関のクロス分析>

就業状況別でみると、「自動車」において、フルタイム（98.3%）、パート・アルバイト（90.9%）のほうが非就業者（70.0%）よりそれぞれ20ポイント以上高くなっているのに対し、「バス」、「電車」、「自転車」と「徒歩」では、非就業者の割合が高く、フルタイムとパート・アルバイトと比べ、「バス」においてそれぞれ17.4ポイントと20ポイント、「電車」においてそれぞれ38.3ポイントと39.7ポイント、「自転車」においてそれぞれ34.1ポイントと28.1ポイント、「徒歩」においてそれぞれ22.5ポイントと25.5ポイント高くなっている。

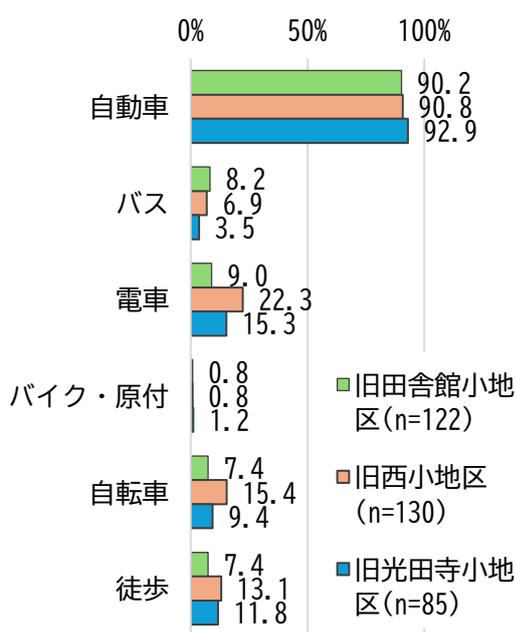


<婚姻状況と利用している交通機関のクロス分析>



婚姻状況別でみると、「自動車」において、独身（婚姻歴あり、100.0%）と既婚（96.7%）は独身（未婚、85.0%）よりそれぞれ15.0ポイントと11.6ポイント高くなっているのに対し、「電車」、「自転車」と「徒歩」においては、独身（未婚）の割合が高く、独身（婚姻歴あり）と既婚と比べ、「電車」においてそれぞれ21.2ポイントと19.7ポイント、「自転車」においてそれぞれ17.4ポイントと12.0ポイント、「徒歩」においてそれぞれ16.8ポイントと11.4ポイント高くなっている。

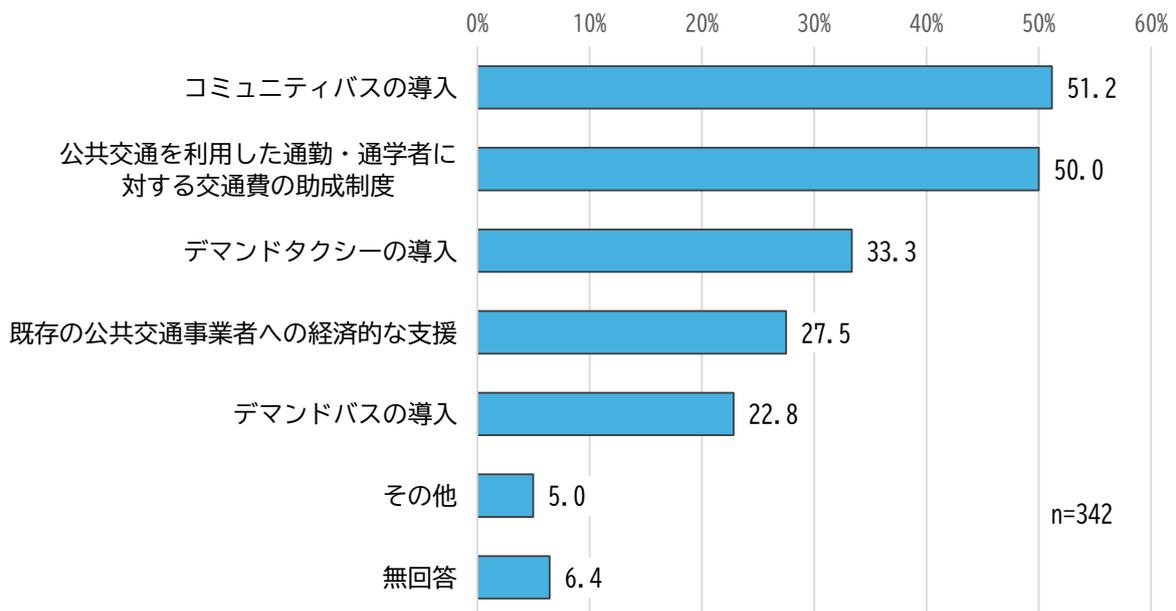
<居住地区と利用している交通機関のクロス分析>



居住地区別でみると、「電車」では、旧西小地区（22.3%）が旧田舎館小地区（9.0%）より13.3ポイント高くなっている。

問 27 今後の公共交通のあり方について、村の取組みとして以下のどれを優先させるべきと思いますか。（優先順位の高いものを、3つまで○）

全体として、「コミュニティバスの導入」の割合が51.2%と最も高く、次いで、「公共交通を利用した通勤・通学者に対する交通費の助成制度」が50.0%、「デマンドタクシーの導入」が33.3%、と続いている。



年齢別でみると、「コミュニティバスの導入」では、40代（62.5%）が10代と30代よりそれぞれ11.3ポイントと10.1ポイント高くなっている。

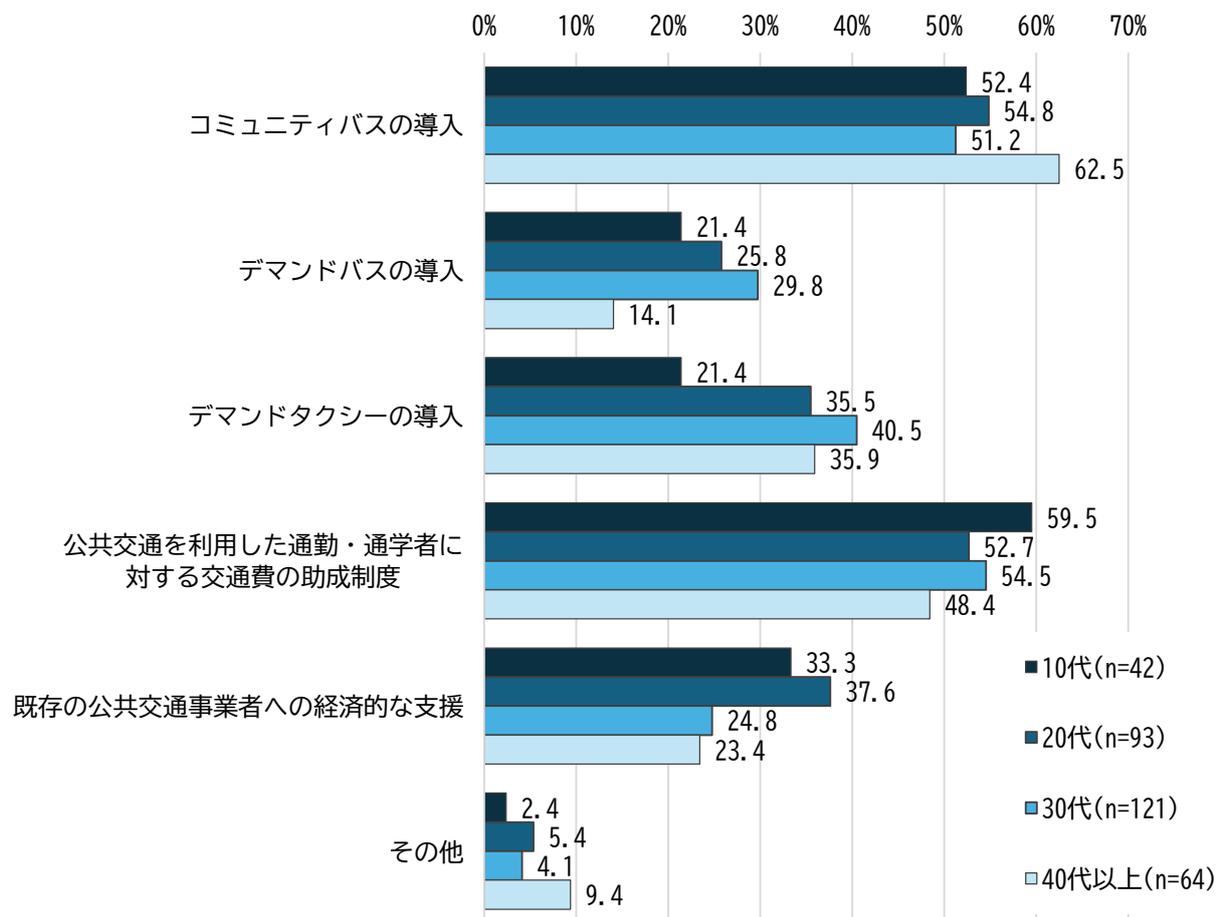
「デマンドバスの導入」では、20代（25.8%）、30代（29.8%）が40代よりそれぞれ11.7ポイントと15.7ポイント高くなっている。

「デマンドタクシーの導入」では、20代（35.5%）、30代（40.5%）と40代（35.9%）が10代よりそれぞれ14.1ポイント、19.1ポイントと14.5ポイント高くなっている。

「公共交通を利用した通勤・通学者に対する交通費の助成制度」では、10代（59.5%）が40代より11.1ポイント高くなっている。

「既存の公共交通事業者への経済的な支援」では、20代（37.6%）が30代と40代より12.8ポイントと14.2ポイント高くなっている。

<年齢と公共交通に対する村の取組への要望のクロス分析>

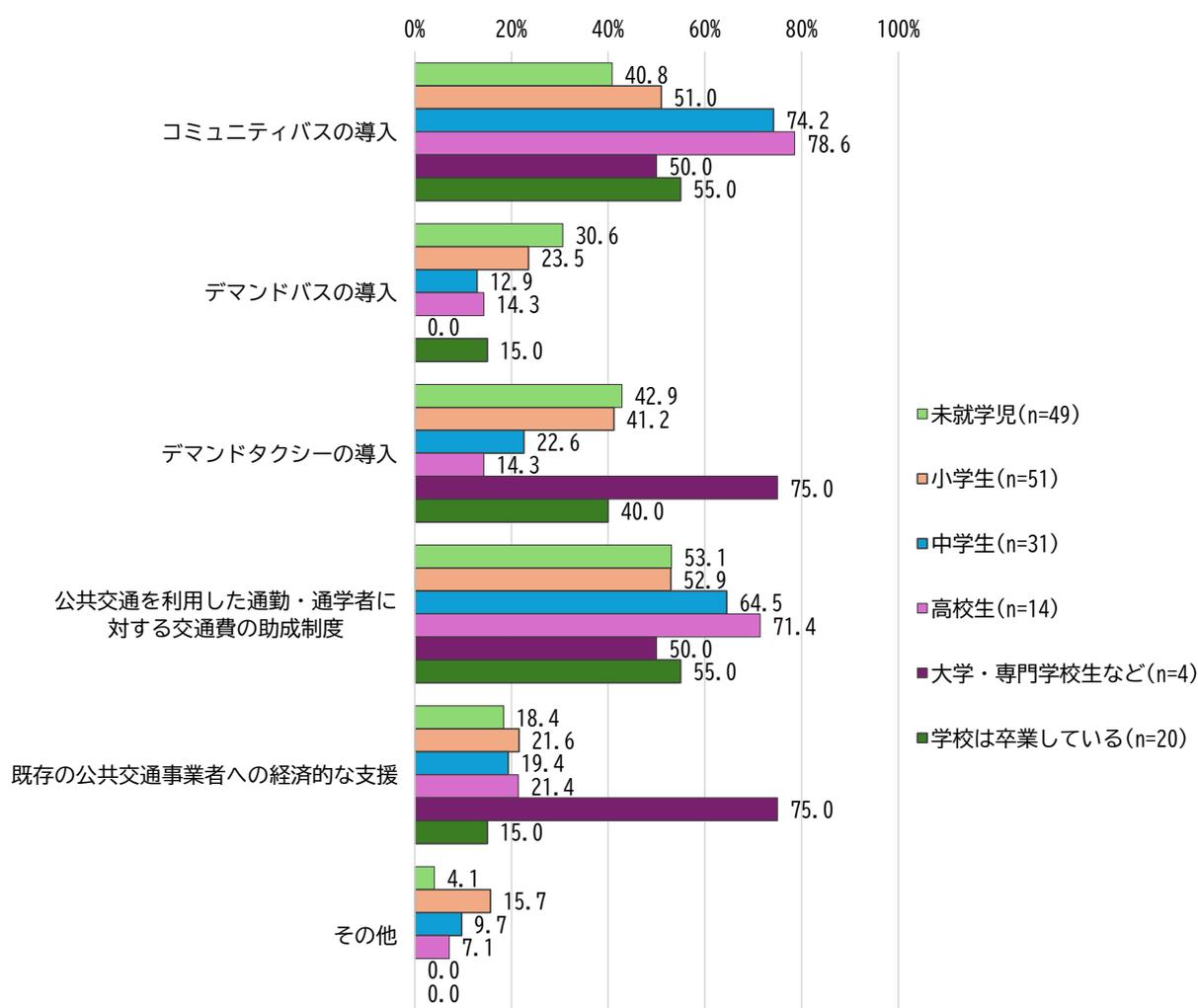


子どもの年代別でみると、「コミュニティバスの導入」と「公共交通を利用した通勤・通学者に対する交通費の助成制度」では、中学生（それぞれ74.2%と64.5%）と高校生（それぞれ78.6%と71.4%）の割合が高く、他の子どもの年代と10ポイント前後～40ポイント弱の差がついている。

「デマンドバスの導入」においては、未就学児（30.6%）の割合が高く、小学生以外の子どもの年代と比べると10～30ポイント程度の差がついている。

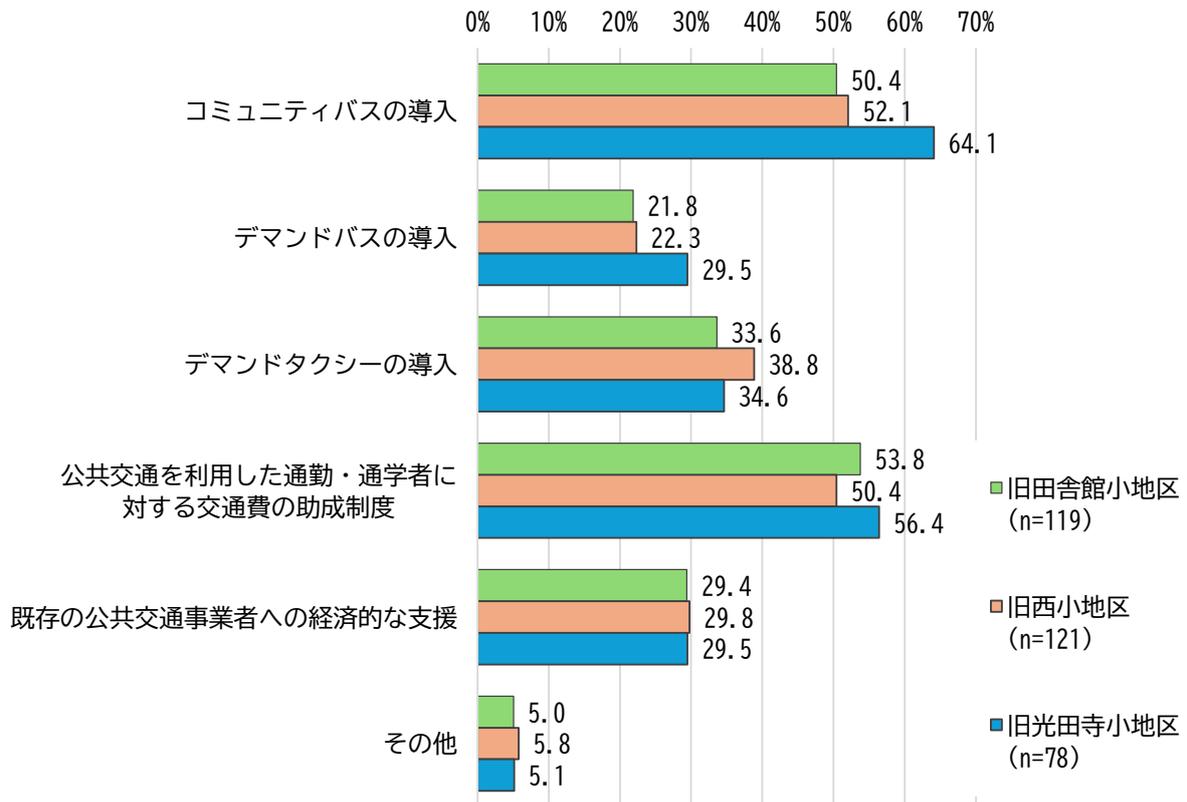
※この分析では大学・専門学校生などが4人のみであるため、分析は大学・専門学校生を除いて言及している。

<子どもの年代と公共交通に対する村の取組への要望のクロス分析>



居住地区別で見ると、「コミュニティバスの導入」において、旧光田寺小地区の割合が64.1%と最も高く、旧田舎館小地区と旧西小地区よりそれぞれ13.7ポイントと12.0ポイント高くなっている。

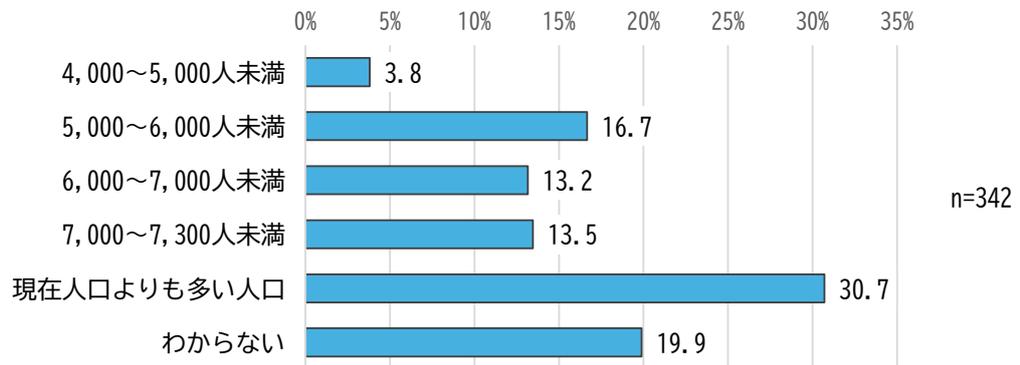
<居住地区と公共交通に対する村の取組への要望のクロス分析>



9 人口減少社会におけるまちづくりについて

問 28 田舎館村では人口減少社会に取り組む上で、目標人口を設定する予定です。令和6年7月現在の本村の人口は、約7,300人となっています。あなたは、20年後の2044年前後で、本村の人口は、現実的な目標として何人くらいであることが望ましいと思いますか。
(1つに○)

全体として、「現在人口よりも多い人口」の割合が30.7%と最も高く、「5,000～6,000人未満」が16.7%、「7,000～7,300人未満」と「6,000～7,000人未満」がそれぞれ13.5%、13.2%と続いている。



自由意見のまとめ

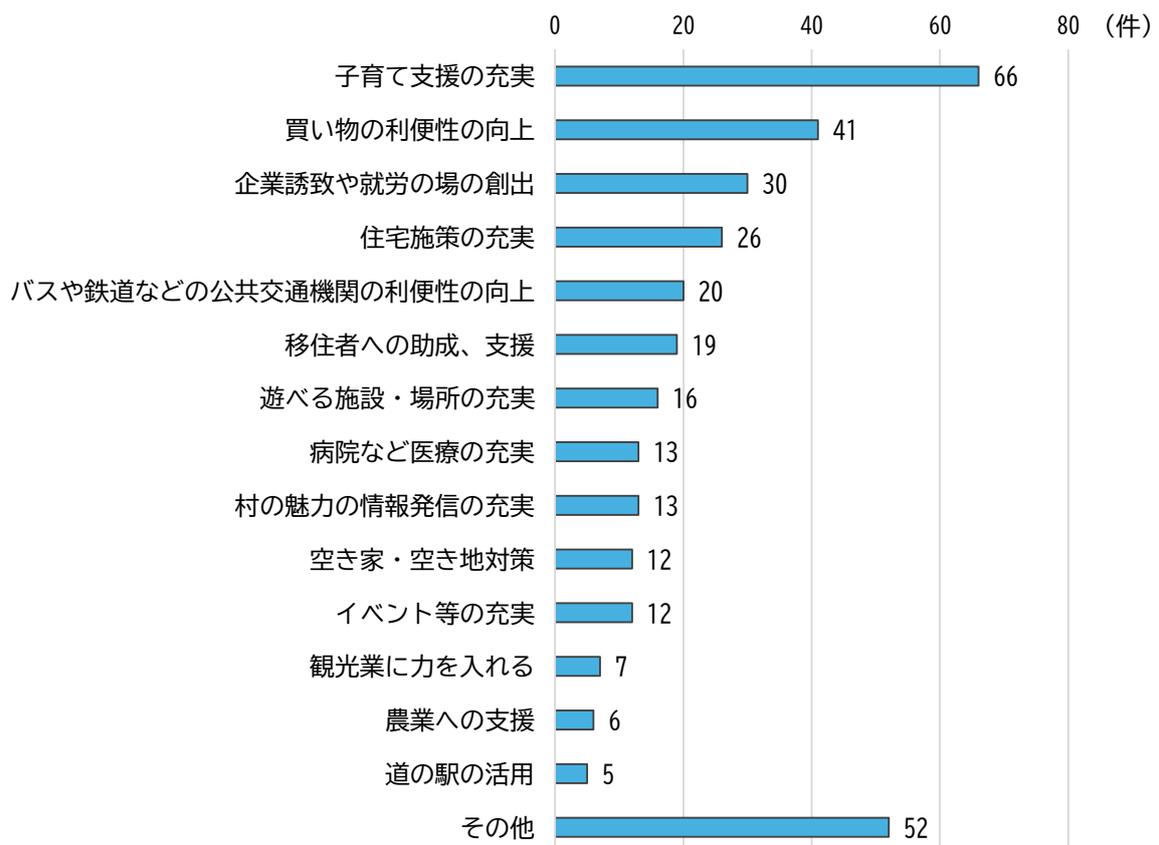
1 自由意見の概要

問 29 現在、田舎館村が活性化し、(将来的な)人口減少に歯止めをかけるためには、村としてどうしたら良いと思いますか。(ご自由に記入してください)

人口減少対策についての自由意見は、174 人の方から意見をいただいた。内容ごとに分類すると、338 件の意見となっている。

意見内容として最も多いのは、「子育て支援の充実」で 66 件、次いで「買い物の利便性の向上」で 41 件、「企業誘致や就労の場の創出」30 件と続いている。

なお、「その他」に分類されたものは、「助成制度の拡充」、「インフラへの投資」、「他市町村との差別化」、「金銭的な支援」、「経済的な支援を増やす」、「子育て世代だけではなく、働く世代にも魅力ある制度を」など、抽象的なものや大きな枠組みでの記述が多く含まれている。



2 自由意見の具体例（上位5項目）

ここでは、上位5つの項目について、具体的な記述のある意見を、それぞれ10件程度掲載している。

1 子育て支援の充実

<p>子育てしやすい環境を作る。魅力のある学校作り。子供を育てる為にお金がたくさんかかり、収入が少ない家庭は大変です。児童手当や医療費給付制度、給食費無償化等は今後も続けてほしいです。</p>
<p>子育て政策の充実（補助金、無償化）により他市町村からの流入を見込めるよう。（不明だが、他市町村との差別化、他でやれていない事業の実施等…あるのかはわかりませんが）</p>
<p>産前産後ケアを充実させる、心と体のケアを出来るように。母子にやさしい村作り。産後の相談や子育ての相談を出きる場所を作る。あくまでも相談でしやすい環境、助産師の配置。</p>
<p>子育て支援を充実すれば出生率も上がり人口増加にもつながると思う。</p>
<p>子育て、出産支援（安心して子どもを産み育てる支援が整っていれば、働く世代としてはうれしいです。） 若者・働く世代にとって住みやすい村を目指して行って欲しいなあと思っております。</p>
<p>子育てに関するサービス等の拡充。 夏休み、冬休み等の休み期間の昼食の提供。（最優先で取り組んで頂きたい。共働きで“お弁当持参”というのが一番の負担となっている） ・スーパーマーケットやドラッグストアの建設。</p>
<p>子供出産後の補助金、支援金などが無い（あるのかもしれませんが）。またはあってもあることに気付かない。CMで青森県で産まれた子供にプレゼントみたいなのあるけど生活圧迫するため産みたいと思わない。金銭面で圧倒的に余裕がありません。なんとかしてほしいです。</p>
<p>他の市町村とは差別化を図れば良いと思う。子が産まれれば田舎館村独自の補助金が出たり、習い事への補助金が出たりする補助があれば転居したい気持ちになると思う。</p>
<p>奨学金の援助も行ってくださると嬉しいです。現在の日本の大学進学率は半数を超えています。また、大学進学の際に奨学金を借りる割合も半数以上です。学生は社会に出た途端に数百万の借金を背負って生活をしていかなければなりません。そのため、仕事や給与が多い都会に人口が流出するのではないのでしょうか。子供を育てるとなったら、なおさら若い時代の借金は重く感じます。田舎館村で就職する際の奨学金返済の援助などがあれば良いと思います。</p>
<p>子どもの教育施設や教育の質を向上させる。他の地域にはない体験活動、ICT、外国人を活用した授業の充実など、他市町村から移住して通わせたいと思うような教育の場を提供する。 田んぼアートやいちご等、村の特徴を生かした新たなイベントを考案していく。 子どもの医療費、給食費等の補助継続。</p>
<p>県外も含め4市町村で子育てをしてきたが、田舎館村が金銭面では1番手厚い。ありがとうございます。 幼児健診無料券を2回分頂いたが、プラス一回分欲しい。子供のあれこれを診てもらったり計測できる機会があることで安心できる。 土日祝に子供を安心安全に預ける施設があれば仕事に行ける。西が丘保育園で休日保育を数回利用したことがあるが、適当、清潔さもなく、料金も日によってまちまち、預けたくない。子供が生まれる前から働いている職場からの転職をしようか悩む。 川部に関してはお祭りごと、ねぶた、分譲地ととても良い土地だし、楽しく過ごせている。何か更に盛り上げることは出来ないか、お子様やお年寄りにも優しい小さな商店などを起業したいと思ってみたり、.. これからもお世話になります。</p>
<p>減少に歯止めは効かない可能性が高いが、生まれてきた子供達がなるべく質の良い保育や教育を受けて、この村に住み続けたいと思えるような体制が作れることが望ましいと思う。そのためには親が子育てしやすいと思えることが、ひとつ重要なポイントかと思う。実際に子供が生まれた後、働きな</p>

がらの子育てはしんどいと感じるし、例えば子供が小学生であれば学校が休みで給食が無い日であれば、児童センターへ連れて行く際にも朝に弁当を作って持たせる等の対応が必要なので、そもそも子どもを預ける施設に連れていくまでにハードルがあることも、子育てをしてみないと気づかない部分であると思う。また、働きながら子育てをしていると夕方の疲れがピークの時に夕食の準備やらが重なり、子供達が寝るまでの間が一番しんどい時間帯になる。それが毎日続くので、夕方は子供達だけでも（有料でも仕方ないと思うが）給食のサービスを受けられるとか、日々の子育ての中に少しでもゆとりを持たせてくれるような、そういった点にフォーカスして子育て支援の施策を施してもらえると、今後子育てをする世代の人たちや、子育てはひと段落したが今後は孫の面倒をみる世代の人たちも助かるのではないかと考える。

2 買い物の利便性の向上

<p>スーパーがない。（黒石に行くので買い物には困らないが不便ではある） ドラッグストア病院等々ない物が多すぎる。 →弘前・黒石で買い物や用事を済ませる事ができるのであれば、何もない田舎館に住むメリットはないのでは。</p>
<p>商店ではなくコンビニでもないスーパーやドラッグストアがあれば交通手段が制限されても気軽に買い物行ける。コンビニは高い。</p>
<p>スーパーや八百屋、魚屋など、村内でも買い物ができる施設が増えると、働く場所もできて活性化につながると思います。</p>
<p>商業施設（スーパーやガソリンスタンド等）の設置。</p>
<p>コンビニが少ない、もっとあっても良い。 藤崎町のような、イオン、薬王堂、トライアル、ハッピードラッグあればよい。ツルハ好きなのでツルハも。</p>
<p>新たに買い物エリアの誘致（スーパーや大型商業施設、大規模な温泉施設の誘致）。</p>
<p>スーパー・薬局があればいいのですが。</p>
<p>食品や日用品を買えるドラッグストア的なものがあたら良いと思う。</p>
<p>身の回り品の購入店確保（ドラッグストアの誘致）。</p>
<p>スーパーかドラッグストアなど、食品・日用品を購入できるところが、村内に1ヶ所でもほしい。</p>
<p>弘前、黒石が近くて交通の便は良いが、田舎館自体にお店が少ない。以前、村で使える商品券ももらったが、使える場所が少なくて困った。現実的に可能かどうかは別として、小さいスーパーでも、飲食店が増えればより快適になると思う。</p>
<p>遠出出来ないお年寄りなどの為、移動式スーパー、又は曜日事に分けて、各スーパーへ送迎バスの手配をする。 足がなくても行ける範囲に大きなショッピングモールなどの買い物出来る場所を増やすべき。県外から来た者からしたら、自然がある点は良いが、あまりにも何もなさすぎて不便。</p>
<p>村内にスーパーマーケットがあるだけで、移住の決め手になってくれる人はいると思う。</p>

3 企業誘致や就労の場の創出

大型ショッピングモールを誘致して、雇用確保。
就労環境の整備（仕事が無いため、村外へ行ってしまう）。
働き口（企業誘致）の増加による税収upと転出抑止。
企業誘致。企業に参入していただき、住居環境等も整備して人口を増やす努力をする（雇用確保）。
田舎館村に様々な企業を誘致して雇用を増やす。
良い企業を誘致することだと思います。※近隣に誘致企業が多く、それによって人口増加が波及していると思います。
若者が、大学進学や就職について考える際、とても魅力のある仕事または地元ならではの仕事が田舎館にあると、若者が地元選択をする割合が高くなると思う。〈私が思う魅力的な仕事の例〉 ・海外に向けて田舎館をPRする仕事（アメリカなら英語、中国なら中国語などを話せる人を募集し、現地に行ったり、海外から来た人に田舎館を紹介したりする。国の行き来などの負担は財政から出す。外国とのつながりのある仕事のつきたい人、言語力のある人を増加させることにより田舎館の多様化を図る。） ・ねふた絵師等の継承（地元や伝統的職業に気軽に携われるように、その職業を目指す若手と職人をつなぐ橋渡しの、部署（窓口など）をつくる。） ・田んぼアートの図案製作部（田んぼアートの作成や、より拡大した規模の田んぼアートにしようと務める仕事）
活発な企業の誘致と社宅などの建設。
育児や介護ができるように時間や休みに融通が利く仕事の提供、紹介、そういった事に取り組んでいる企業の誘致や起業する人の支援等を行い、現役世代が暮らしやすい地域になるような取り組み。
働く場所が絶対的に不足しているので若者が県外へ流出する。それを防ぐには企業誘致が絶対に必要！
老若男女が継続して働ける場所の確保。
企業誘致などで働き口を用意し、村外から人を呼び込む。

4 住宅施策の充実

村外から移住などの方などに住宅充実、新築がなかなか建てれないなどの制限があり親もかなり苦労していた。川部方面よりも役場周囲にあればもっと選択肢も増えると思います。
住宅支援（外部から移住する時、住宅に対して何か村から支援があったら、すごくありがたい）。
新しいニュータウン、宅地の開発。
分譲住宅の拡充。
都市計画区域及び農業振興地域を見直すなどして、居住地を確保しやすくするのはどうでしょうか。
子育て世代への支援。例えば住宅資金の補助等。移住者へのサポート&移住者を増やすための空家活用。
村内を通り過ぎる道路だけ作ってないでその道路の周辺に移住者が住める用宅地を造整するとか定住につながる様にするとか、また周辺の市・町のベッタウン化を考えても良いのでは…。
村道沿いにある遊林農地等を簡単に宅地に地目変更できるようにし、住宅建築の促進。
新築の自宅をたてる人への補助金。
空き家が目立ってきているので、村外の人に移り住んだ際の助成やお祝いを手厚くすればよいかも。
使っていない土地を住宅地にしてもっと人口を増やせばいいと思う
若夫婦世帯が移住出来る様な環境整備。例えば、村外からとか県外から移住される方に補助金をだしたり、国でもやっていますが、村独自の住宅の改修費用に関する補助金、宅地の整備など。又、企業の誘致。
宅地を増やしたら良いと思う。実家の近くに家を建てれず、他市町村に移住する人もいると聞く。

5 バスや鉄道などの公共交通機関の利便性の向上

<p>公共バスは学生にとって時間制限される。ちょうどいい時間帯がなくかなり不便でしょうがない。特に冬。</p>
<p>現在、住んでいる地域も高齢化して、若い人達や子供が少ないように感じます。駅周辺の整備や交通機関の充実で、もっと若い人達に家族で住んでもらえたら、少しずつでも人口は増えると思います。</p>
<p>通学に対する補助金（親の自家用車による送迎のガソリン補助など）。</p>
<p>子供が中学生になったら、冬は免許がない私が送って行ける事も出来ない。父親との時間も合わないで、1時間歩いて登校させなければいけないので中学校でもバス通学があると、免許がない親だったり、早い時間からの仕事の親だったり、は凄くいいと思う。交通費を寧ろ多く払っても小・中とバスがあると凄く助かる。</p>
<p>バスの本数を増やしてほしい（特に午前中）。</p>
<p>車がない人のために交通の便を良くする。</p>
<p>自転車通学が出来ない冬期間、中学生の下校バスだけでも出して欲しい。学校から自宅が遠い子は本当に不便。放課後、小学校のクラブ活動に参加させたくても、両親共働きだと送迎が難しく参加させられない。コミュニティバスを出すなど対策をして欲しい。どうか、出来ない理由を探さなくて、出来る方法を考えて頂きたい。子育てしやすい環境、子どもを健やかに育てるという観点からも是非、前向きに検討して頂き、村外の方にもアピールし人口減少に歯止めをかけて頂きたい。</p>
<p>村独自の何かがあれば、別に村に住む必要はない。村には高校はないので、村外に行くしかないが、その通学費用（バス、電車など公共交通機関）を補助するなど。何か、田舎館村に住むと、メリットがないと、どこに住んでも一緒なので、他の市町村がやっていない事をやらないと、誰も田舎館村に住み続けようと思わないんじゃないですか。</p>
<p>通勤&通学者への交通費支援（助成）。</p> <p>冬期間の移動確保（除雪状況の見える化、コミュニティバス、デマンドタクシー、中学校&スポ少スクールバス導入）。</p>
<p>スポ少バスがあると、もっと部活動をやれる子が増えると思う。</p> <p>中学校もスクールバスが出れば良いと思う。</p>
<p>塾を作るのは難しいし、他市町村に比べて良い物が出来るとも思わないので、中高生の塾に通う交通費や送迎を支援する様な物があれば、30代~40代の世代は魅力的に思うのではないか。小さい子供の為の支援だけでなく、中高生への支援も充実させて欲しい。</p>
<p>川部駅があり青森市や弘前市への通勤・通学のしやすさが田舎館村の強みの一つだと思うので、公共交通に力を入れて住みやすさをアピールしてはどうでしょうか。例えば交通費の助成など。</p>